週刊 YEAR BOOK

1950
昭和25年

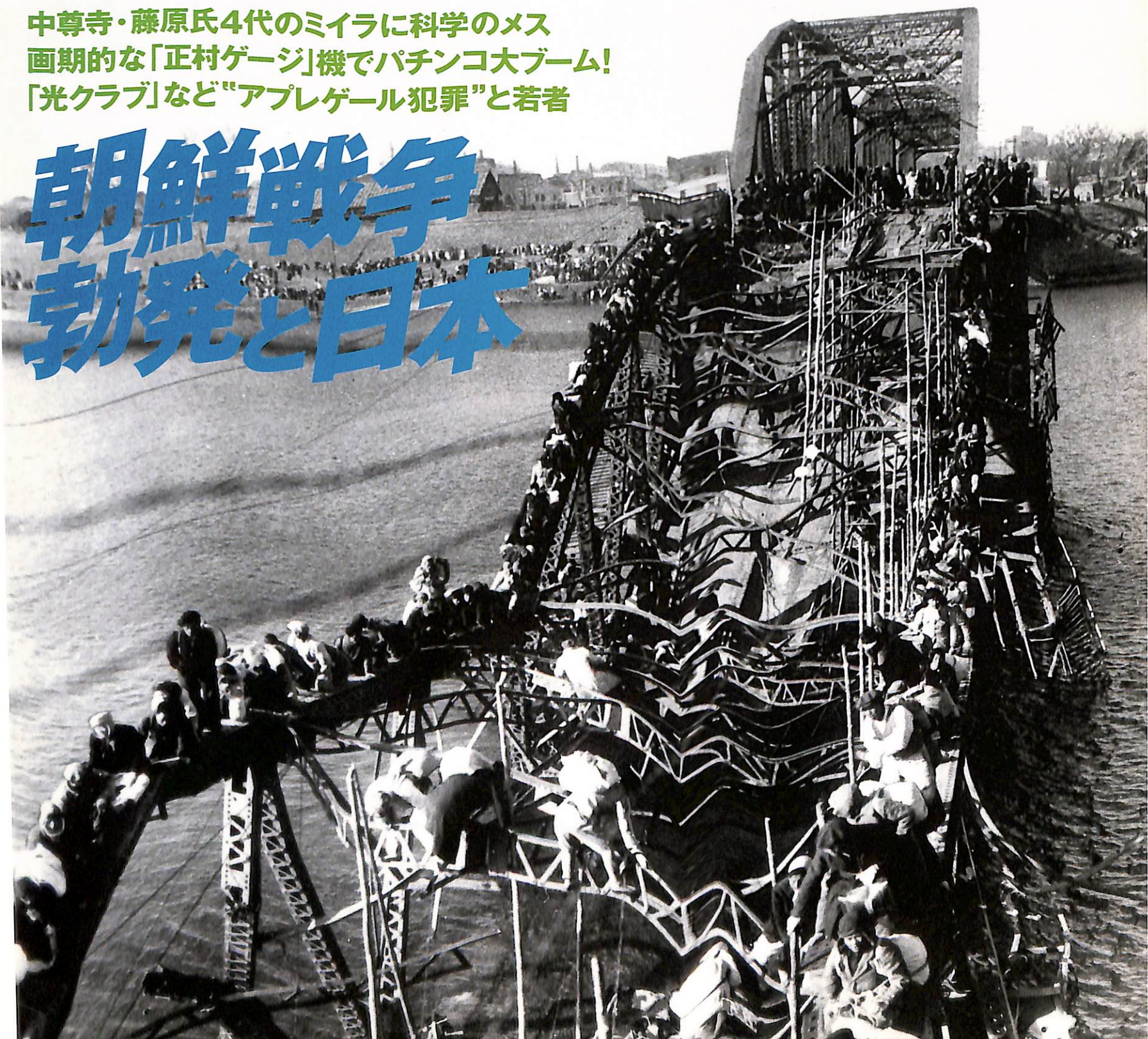
日録20世紀

8/26・9/2
平成9年8月26日・9月2日合併号発行
(毎週1回発行)第1巻第27号
¥560
講談社

中尊寺・藤原氏4代のミイラに科学のメス
画期的な「正村ゲージ」機でパチンコ大ブーム!
「光クラブ」など"アプレゲール犯罪"と若者

朝鮮戦争勃発と日本

▲9月15日、仁川上陸作戦を視察するマッカーサー元帥（中央、椅子に腰かけている）。この上陸作戦は、マッカーサー元帥個人の発案だった。　ユニフォト　プレス

◎表紙　昭和25年12月4日、平壌の南、大同江に架かる爆破された大東橋を伝って避難する人々。　マックス　デスフォー（AP）　WWP

6月25日、北朝鮮軍南下！ 3年間で516万もの犠牲の陰で「朝鮮特需」――35億6000万ドルと日本

▼米軍戦車の修理で活気づく相模原の戦車修理工場。朝鮮戦争を通じて砲弾、小銃など兵器類の発注も多く、日本に兵器産業が復活する引き金になった。　毎日新聞社

昭和二五年六月二五日に勃発した朝鮮戦争は、隣国・日本にも大きな影響を与えた。米軍主体の国連軍の兵站基地となった日本では、軍需物資調達や米兵の個人消費のために総額三五億六〇〇〇万ドルにものぼる「朝鮮特需」が発生。敗戦後どん底にあった日本経済は、ようやく息を吹き返すことができたのだった。

小倉の街を震撼させた七月一一日夜の出来事

ドドン、ドン、ドン――。

昭和二五年七月一一日夜、戦後初めて再開される祇園祭を翌日に控え、祇園太鼓の音でにぎわう小倉の街を恐怖のどん底に突き落とす事件が発生する。小倉市城野（現・北九州市小倉北区）の米軍補給基地から黒人兵約二五〇人が完全武装のまま集団脱走し、酒屋を軒並み荒らすと、一帯の民家に襲いかかった。カービン銃やライフルを手にした脱走兵の中には手榴弾をぶら下げているものもいた。

小倉警察や米軍MPはなすすべもなく、鎮圧には米軍一個中隊が出動し市街戦となったが、七月一二日の夕方になってようやく事件は終息する。強盗、暴行、窃盗、傷害など警察に届けられた被害は七十数件。表ざたにならない婦女暴行事件も多数あったと伝えられている。

この年の六月二五日に勃発した朝鮮戦争は、突如として南下を始めた北朝鮮軍の前に韓国軍が潰走し、二八日には韓国の首都ソウルが陥落。支援に派遣された米軍も烏山で惨敗し、北朝鮮軍は韓国臨時政府の置かれた大田に迫っていた。

6月25日、北朝鮮軍南下！ 3年間で516万もの犠牲の陰で 「朝鮮特需」――35億6000万ドルと日本

当時、MP司令部主席通訳だった永井義之氏は「敗北の色が濃い戦場に駆り出されるという気持ち、米軍内部にあった黒人差別の空気に対する反発、そうした憤満がうっせきしていた時、街から聞こえてきた祇園太鼓の音が彼らの郷愁をかきたてたのでは」（『激動二〇年　福岡県の戦後史』）と語っている。

はしごから屑鉄まで日本中に特需ブーム

米軍主体の国連軍の介入が本格化すると、日本は朝鮮戦争の出撃基地、兵站基地となっていった。

国連軍反撃の糸口となったこの年九月一五日の仁川上陸作戦では、水面から約五メートルの高さがある仁川港岸壁を乗り越えるために日本製のアルミはしごが使用された。米海兵隊からはしごの製作を受注した日本アルミニウム工業（現・日本アルミ）の石川俊貞社長（当時）は「昼夜を通して製作、出来る片っ端からジープで神戸埠頭の米駆逐艦に持ちこんだ」（『社史　日本アルミ』）と回想している。

▲仁川上陸作戦により、米韓両軍は9月26日、首都ソウルの奪回に成功する。写真はソウル市内を掃討する米軍兵士。　共同通信社

朝鮮戦争に投入された日本製品は、はしごだけではなかった。八月二五日に設置された在日兵站司令部は、日本国内で軍需物資のドルによる直接買い付けを開始。綿布、毛布、麻袋などの繊維製品や軍用トラック、有刺鉄線、鋼材、ドラム缶といった工業製品が大量に発注され、車両・機械の修理や通信・輸送などのサービスも含めた「朝鮮特需」が発生する。

米軍のトラックなどを受注したトヨタ自動車工業（現・トヨタ自動車）は、「二五年六月に一億二九五九万円もあった損失が七月にはほぼ解消し（中略）二五年一〇月から二六年三月までの第二三期決算では二億四九三〇万円の純利益をあげ、戦後初めて配当ができるまでに回復」（『創造限りなく　トヨタ自動車50年史』）する。また、二七年から砲弾の製造を始めた小松製作所（現・コマツ）は、四年間で約一六〇億円を受注し「資本蓄積も進み、後年建設機器メーカーとして飛躍する準備を整えた」（『小松製作所五十年の歩み』）としている。

特需ブームに沸いたのは大企業だけではなかった。繊維業界では人絹糸や織物相場が急騰し、一夜にして財をなすものが続出した。その一人、福井の糸商・間脇正一の銀行口座には当時、「一億二〇〇〇万円の残高があった」という。また、屑鉄の値段も跳ね上がり、マンホールの蓋が盗まれてあちこちに木製のマンホールの蓋が出現するほど、主婦や子どもまでが屑鉄拾いに精を出した。

経済企画庁によれば特需受注高は二五年六月から停戦までの三年間で、累計一億三七〇〇万ドル。停戦後も韓国の復興資材や駐留米軍の平時調達などで特需は続き、三〇年末までに一六億一九〇〇万ドルに達した。さらに「パンパン経済」と呼ばれた、米兵の個人消費を加えると三〇年までに三五億六〇〇〇万ドルにものぼる。こうした莫大な特需によってドッジ・ライン下の厳しい内需抑制策にあえいでいた日本経済は息を吹き返したのだった。

「朝鮮特需で日本経済は戦前のレベルまで回復しました。特需がなければ、復興にはもっと時間がかかっていたでしょう。早い段階で復興できたからこそ、一九六〇年代の世界的な経済成長に乗り遅れずに、日本も高度成長期を迎えられたのです」（経済評論家・田中洋之助氏）

――仁川上陸後、国連軍は北朝鮮の首都・平壌を占領（一〇月二〇日）したが、一〇月二五日には北朝鮮の援軍に二〇万を超える中国人民義勇軍が参戦。激しいソウル争奪戦の後、南北両軍は三八度線をはさんで一進一退の攻防を繰り返し、昭和二八年七月二七日ようやく休戦協定が結ばれた。

結果的に日本経済の発展をうながした朝鮮戦争だったが、三年間にわたる戦争の犠牲者は、南北朝鮮あわせて軍人の死傷者一四六万人（国連軍、中国軍含む）、民間人の死傷・行方不明者三七〇万人という膨大な数にのぼったのだった。

毎日新聞社

▲特需景気により、東京は昭和25～26年にかけてビル・ブーム。写真は日活国際会館の工事風景。

5000対1の賭け、仁川上陸作戦

6月25日の開戦以来、11万1000人の北朝鮮軍の前に、韓国軍とそれを支援する国連軍は敗走を続けた。開戦4日目にはソウルが陥落、追い詰められた国連軍10万人は釜山周辺に包囲されていた。この劣勢を挽回すべく国連軍総司令官マッカーサー元帥が立案したのが、首都ソウルの西方30キロに位置する仁川への上陸作戦だった。7万の部隊で北朝鮮軍の背後をつこうとしたのだ。

成功をあやぶむワシントンの軍首脳に対し、マッカーサーは「仁川が5000対1の賭けであることは承知している。しかし私はやるよ。これまでもこの種の賭けはやってきたからね」と自説を押し通す。

そして9月15日、「世紀の大ばくち」と戦史に言われる仁川上陸作戦が行われた。ロケット弾6000発の支援砲撃のもと、450隻の上陸用舟艇に分乗した米第10軍は日本製のはしごを伝って仁川港の岸壁を乗り越えて仁川市街に突入。あっさり仁川を放棄した北朝鮮軍を追撃する国連軍は9月26日、ついにソウルを奪還した。

仁川上陸作戦の国連軍の戦死者はわずか20人。優勢な兵力で大成功したこの作戦を、ソ連の雑誌は「元帥でなく伍長が指揮官でも勝てる」と評したが、マッカーサーは「最も確実な上陸は、敵がいないところに上陸することだ。それができるのは、やはり伍長でなく元帥だ」と満足げに語った。

▲上陸用舟艇で、仁川上陸を待つ兵士たち。
ハンク・ウォーカー　TIME LIFE　PPS

〝東北の王者〟に科学のメス
中尊寺・金色堂に九日間の学術調査
藤原氏四代の遺体が八〇〇年の眠りからさめた！

▲調査結果に基づいて復元された秀衡像。遺体の脊椎からは、結核にかかったことを示す病変が認められたという。 中尊寺提供

▲3月24日、報道陣の前に3つの棺が公開された。左から、初代・清衡、2代・基衡、3代・秀衡の棺。 毎日新聞社

昭和二五年三月二三日、岩手県平泉の中尊寺金色堂にその存在が伝えられていた〝東北の王者〟藤原氏四代の遺体に科学のメスが入れられた。「絶対にご遺体の尊厳をおかさぬこと」を条件に開始されたこの九日間にもおよぶ学術調査で、一体、何が明らかになったのか。

ミイラ化した遺体から判明「秀衡は一六四センチ、肥満型」

三月二二日、中尊寺のある標高一三六メートルの一山には前夜来の雪が薄く積もり、八〇〇年もの間眠り続ける藤原氏四代の遺体が、金色堂から本堂に移され、今まさに科学的調査が行われようとしていた。

平安時代末期の約一〇〇年、奥州藤原氏は清衡が奥六郡と出羽を領有して以来栄華をきわめ、鎌倉幕府成立の直前には、三代・秀衡が鎮守府将軍となり、兄の頼朝と反目して逃れた源義経を庇護したことでも知られる。この藤原氏四代の遺体調査には大きな関心が集まった。

「ひそかに見た寺僧が狂死した、目がつぶれた」といった言い伝えも残り、神秘のベールに包まれた遺体の遷座式には、天台宗の総師・浅草寺貫主の大森亮順師（七二）や『源頼朝』などを著した作家の大佛次郎（五二）、調査団の科学者たち、さらには平泉に住む歴史学者の津田左右吉（七六）をはじめ檀徒や報道陣など約五〇〇人もの関係者が参列した。

この日午前一〇時すぎ、金色堂の中に照明がともされると、集まった人々からため息がもれ、身を震わせながら手を合わせる姿も見られた。そして読経が流れる中、棺は古式にのっとり初代・清衡、二代・基衡、三代・秀衡、四代・伝忠衡の順で神輿に乗せられ本堂に運びこまれた。

本格的な学術調査は翌二三日から始まり、九日間におよんだ。この調査にあたり、遺体の人類学的計測と観察には長谷部言人博士と鈴木尚医学博士、指紋・血液型の鑑定には古畑種基医学博士、レントゲン検査には足澤三之介医学博士がそれぞれの任にあたることになった。

最初に開けられたのは秀衡の棺であった。純白の石綿でおおわれていた遺体は保存状態が良好でほとんど全身がミイラ化し、頭髪はなかったものの、表情は若々しく肥満型体型であった。

次に開けられたのは基衡の棺で、頭部、右手、両足が白骨化していたが、砥の粉

▶四代の遺体は、現在も、金色堂の須弥壇の下に安置されている。 朝日新聞社

▲3月22日、遺体が金色堂から本堂に移される。本堂では午後2時から大法要がいとなまれ、続いて、調査活動の無事を祈って、学術調査移行式が挙行された。 毎日新聞社

色をした胸部と腹部の皮膚は完全に残り、胸は厚く腹は大きくせり出し、やはり肥満型であった。

清衡の遺体は、四体中最も古いため保存状態が悪く、頭部や腰部、下肢をのぞくとほぼ白骨化し、ひどく痩せていた。

忠衡と伝えられる遺体は首だけで、四体の中で特に若々しかった。しかし頭と顔の皮膚には合戦の時に受けたと思われる一六ヵ所もの傷跡が残っていたことから、鎌倉幕府の公的な記録書である『吾妻鏡』の記述と照合され、実は忠衡ではなく、忠衡の兄、泰衡であることが判明。棺の中から発見された歯や甲状軟骨などから、基衡と秀衡の遺体が入れ替わっていることも明らかになった。

レントゲン写真をはじめ、さまざまな科学的検査の結果、没した年齢は、清衡が七三歳（一一二八年）、基衡は享年不明（一一五七年）、秀衡は六六歳（一一八七年）、泰衡が二五歳（一一八九年）と推定された。また血液鑑定では、清衡はAB型、基衡もAB型、秀衡はA型、泰衡B型と、四人が親子であることに矛盾がないとの見解が示された。

四人とも頭型は短頭型・中頭型で頭高は高く、顔型、鼻型、眼窩型からみても平均的な日本人で、身長は清衡一六〇㌢、基衡一六七㌢、秀衡一六四㌢であった。

しかし、藤原氏四代の遺体が人工的に作られたミイラなのか自然のものかについては、結論を得られなかった。

この学術調査について、盛岡大学学長で福島県立博物館館長の高橋富雄氏は、「八〇〇年前のミイラが四体もそろっていたということは、世界にも例がないこと。また、ミイラが歴史を証明したという点で画期的なことです。さらに仏教的に見ても、肉体を残して永久保存しようという極楽浄土の仏教理論を、現実のものとして明らかにした点できわめて大きな意義がありました」と語っている。

「尊厳」を守ると主張する寺側と報道陣の押し問答

朝日新聞文化事業団と中尊寺の合意で実現したこの調査をめぐる報道合戦もすさまじかった。遷座式に押しかけた各新聞社、ニュース映画社と中尊寺側との間で「撮影させろ」「いや駄目」の押し問答が三日間にわたって続いたのだ。

調査三日目の二五日には、本堂は警察官や消防団によってものものしい警戒体制が敷かれ、「読売新聞」は「押し問答一〇時間――依然〝信仰の門〟開かぬ中尊寺」、「毎日新聞」は「ミイラ三体現わる――依然続く撮影の拒否」と報じている。

その後も激しい押し問答が続いたが、中尊寺側は、あくまでも遺体の「尊厳」を守るとする主張を押し通した。報道陣はしぶしぶ山を下りることになった。

「私どもにとっては当初から学術調査をもとにした内見が目的でした。今後も一般公開することはありません。一〇〇年に一度くらいお棺を開けることはありますが、それはご遺体の保存状態を確認し、薬剤などの処置をほどこすためです」

こう語るのは、中尊寺円乗院住職・佐々木邦世氏である。

藤原氏四代の遺体は今も金色堂の須弥壇の下に安置され、参拝客の信仰を集めている。

女たちの肖像

第一回「ミス・日本」山本富士子の女優業の〝苦しみ〟

稲葉真弓

しばしば〝日本一の美女〟と評される女優の山本富士子は、この年一八歳で第一回「ミス・日本」の栄冠をいとめた人である。それも自分の意志で応募したのではなく、彼女の美貌に目をとめた父親の友人が、勝手に写真をコンテスト事務所に送ったのがきっかけとなった。

▲「ミス・日本」に選ばれた山本富士子。 毎日新聞社

当時の「ミス・コンテスト」は、今ほど一般的ではなく、むしろさまざまな偏見があったというが、彼女は父親が鉄工所を経営する裕福な家庭に育ち、京都府立第一高女でも成績は上位のお嬢さん。意志も強く「ミス・日本」に選ばれた後、各映画会社から女優にとスカウトされたが、「ミス・日本の冠だけで女優になっても長続きしない。ミス・日本の山本富士子ではなく、一人の女優として認めて下さるなら」と二年余りスカウトに応じなかった。しかし母や妹の勧めもあって昭和二八年、二一歳で大映の専属女優となり、「花の講道館」でデビュー。以後一〇年間で一〇〇本の映画に出演した。

が、山本富士子の苦悩はその人並みはずれた美貌にあった。何をやっても、〝ああ、あのミス・ポンか〟と言われ意気消沈することも多々あり、そうした中傷・誹謗を消すためにがむしゃらになって役作りに没頭した。演技開眼したのは、吉村公三郎監督の「夜の河」だったという。昭和三四年には「白鷺」「彼岸花」の演技でブルーリボン主演女優賞を受賞、三七年、三〇歳の時に作曲家の古屋丈晴と結婚、公私ともに順風満帆であるかのように見えたが、三八年、舞台出演を望む山本と大映との間でトラブルが発生し契約破棄、フリーとなった。五社協定（松竹、東宝、大映、東映、新東宝との間で交わされたもので、いずれかの映画会社専属でなければ他社作品には出演できないなどの規約があった）により映画出演の道を閉ざされた彼女は、以後テレビ、舞台に活路をみいだし、三九年四月大阪・新歌舞伎座の「千姫御殿」で舞台女優としてのデビューを飾った。

四三年、長男・茂晴を出産。仕事の時は仕事一筋、オフの時はよき家庭人の生活を守りつつ、四七年初演の「静御前」で当たり役を得た。この人の声のよさ、立ち居振る舞いの美しさには定評があるが、五六年からは東京・明治座で正月公演の座長をつとめるようになり、「正月女優」の異名もある。

勝者・敗者

〝復活〟の決め球はスライダー 藤本英雄、日本初の完全試合！

阿部珠樹

この年の六月二八日、青森球場で、巨人対西日本パイレーツの試合が行われていた。巨人のマウンドに立つのは藤本英雄（三二＝後に中上姓）。藤本は昭和一七年、明治大学から巨人に入団しエースとして活躍してきたが、戦後は肩を痛め、一時は投手を断念して外野手転向をはかるなど、けっして順調な野球人生ではなかった。藤本が再び投手として返り咲くことができたのは、スライダーを習得したためである。日本のプロ野球でスライダーを本格的に使うようになったのは、藤本が最初だった。

この日、藤本の立ち上がりは危なっかしかった。先頭打者に対してボールが先行しいきなり0―3、かろうじて2―3に持ちこみ、最後は得意のスライダーで三振に仕とめる。続く二番打者は強烈な外野へのライナー。だが、あらかじめセンター寄りに守備位置を変えていたレフトが好捕する。

このピンチを切り抜けて、藤本は乗った。二回、三回、四回、一人の走者も出さず、西日本打線をかたづけていく。六回を無走者無失点で切り抜けたあたりから、巨人のベンチでは監督の水原茂（四一）がさかんに咳ばらいをするようになった。選手たちが藤本のパーフェクトを話題にして、重圧をかけないようにというサインである。もちろん、選手たちも藤本のパーフェクトには気がついていた。一番気がつくのが遅かったのは本人だが、それでもさすがに七回、一番打者が打席に入ったところで気がついた。

「七回に一番打者、これは完全試合だ」

緊張はあったが、藤原捕手の好リードもあり、藤本は九回二死までこぎつけた。西日本は屈辱的な記録をなんとか阻止しようと、監督の小島利男が代打に立つ。しかし重圧に押しつぶされたのは藤本ではなく、小島の方だった。簡単に追いこまれ、最後は決め球のスライダー。小島のバットは空を切った。日本最初の完全試合は東北の空の下で達成された。だが、交通事情の悪かった時代、この試合に随行していたカメラマンはいなかった。だから史上に残る偉業を記録した写真は一枚も残っていない。

▶六月二八日に初の完全試合、三〇日にトロフィーを贈呈された藤本投手。 読売新聞社

毎日新聞社

▲女子プロ野球選手求む(1月)この年4チームで連盟を結成、4月に記念大会を行うほどの隆盛だった。写真は東京・日本橋で開かれた東京レッドソックスの採用試験。

▼後楽園球場にスキー競技場(1月28日)高さ44メートル、長さ120メートル。全日本選抜スキー・ジャンプ大会が行われ、猪谷千春(18)が回転競技に出場して圧勝した。

毎日新聞社

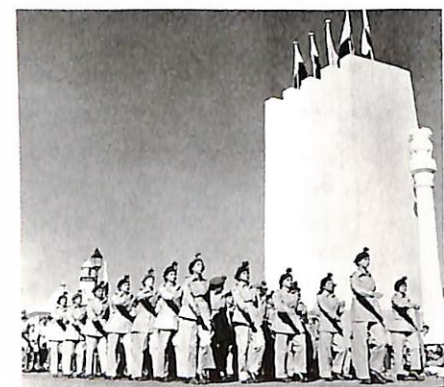
▶国際スター三船敏郎(29)、結婚(1月5日)花嫁は女優志望の吉峰幸子さん(22)。東京の青山学院礼拝堂で山本嘉次郎監督夫妻の媒酌で挙式。写真は披露宴で新郎と握手する民主自由党幹事長・広川弘禅。

毎日新聞社

毎日新聞社

▼「列車商店」オープン(1月15日)国鉄が余剰職員の再就職をねらって計画。鉄道弘済会が大宮市で、無料で払い下げられた客車3両と蒸気機関車「弁慶号」に、肉屋、海苔屋(写真)、美容院、食堂などを開店した。

▲田中絹代、華やかに帰国(1月19日)前年10月、芸能人初の日米親善使節としてハワイ、ロサンゼルスなどを訪問。3ヵ月ぶりに羽田空港に降り立ち、出迎えのファンにアメリカ仕込みの投げキスを連発した。

▼インド独立(1月26日)1947年8月に自治領となって英国の支配を脱していたが、この日、新憲法を施行、正式に共和国として独立した。写真は首都ニューデリーでの式典。

毎日新聞社

昭和25年1月

- 1(日)●マ元帥、日本の自衛権否定せずと言明。
- 2(月)●寒波で正月の人出は半減、映画館のみ超満員。
- 3(火)●NHK「愉快な仲間」放送開始。
- 4(水)●前年来日の外国人観光客は一万八〇〇〇人、外貨収入八〇〇万ドル、と新聞に。
- 5(木)●トルーマン米大統領、中国・台湾問題に軍事介入せず、経済援助にとどめると声明。
- 6(金)●英、中華人民共和国を承認し、台湾と断交。
- 7(土)●新千円札(聖徳太子の肖像)発行。
- 8(日)●池部良・山口淑子主演「暁の脱走」封切。
- 9(月)●七日に自噴始めた帝国石油秋田鉱業所三四号井で日産一八〇キロリットル。過去二〇年の日本記録。
  ●日本コロムビア、LPレコードを試作。
- 10(火)●閣議、主食を芋含め一日二合八勺に増配決定。
- 11(水)●三菱重工業、東・中・西日本重工業に三分割。
  ●岡山城月見櫓を所有者・池田家が財政逼迫のため売り出し、と新聞に。
- 12(木)●中国軍、海南島に上陸(4月30日全島占領)。
- 13(金)●国連安保理、ソ連の国府代表追放案を否決。
- 14(土)●中国、北京の米総領事館を接収。
- 15(日)●初の上級公務員試験実施。競争率は三倍。
- 16(月)●GHQ、京都で米ドル軍票偽造団を検挙。
- 17(火)●大蔵省、前年は一〇五四億円の入超と発表。
- 18(水)●GHQ、平和目的のレーダー研究を許可。
- 19(木)●社会党が分裂。右派は片山哲ら、左派は鈴木茂三郎ら(4月3日再統一)。
  ●戦後初の芸能親善使節、田中絹代が帰国。
- 20(金)●相撲協会、連続負け越しの横綱格下げを決定。
- 21(土)●ふえる自殺、青酸アドルムが大半と新聞に。
- 22(日)●三船敏郎主演「石中先生行状記」封切。
- 23(月)●蘭印(現・インドネシア)から元陸軍大将・今村均ら戦犯六九三人が帰国。巣鴨拘置所へ移送。
- 24(火)●電力事業再編は九社に分割と審議会答申決定。
- 25(水)●東京—台北の民間国際無線電話が開通。
- 26(木)●インドが新憲法施行、独立記念式典を行う。
- 27(金)●通産省、綿製品の制限切符を廃止し、三〇点まで点数切符だけで買えると発表。
- 28(土)●仏議会、ベトナム・ラオス・カンボジアの独立新協定を批准。
- 29(日)●朝日新聞世論調査で「暮らし向き好転」が二七%、「低下」が四九%。
- 30(月)●ボストン市会、日本議員団の市会見学を拒否。
- 31(火)●トルーマン米大統領、水爆製造を正式命令。
  ●中国軍、全土解放の終了を宣言。

ニュース・ファイル 1950

フォト+日録で再現する365日

食料品や衣類の統制が次々に解除され、"本物の砂糖"が台所に姿を現した。競輪場は満員の盛況、第一回プロ野球日本シリーズが行われ、札幌では雪祭も始まった。しかし六月二五日、朝鮮戦争勃発。レッドパージが吹き荒れ、沖縄では基地の恒久化が進められる。

◀美空ひばり(13)、名子役マーガレット・オブライエンと対面(7月10日)米国公演中のこの日ロサンゼルスで会って意気投合、昭和27年、映画「二人の瞳」で共演した。写真は贈られた着物を着て喜ぶオブライエン。

共同通信社

◀「かつぎ屋電車」誕生（2月1日）早朝の千葉方面から都心に向かう電車は、野菜や魚などの行商で大混雑。国鉄は対応策として、専用車両を設けた。

共同通信社

▲川崎競輪で騒動（2月5日）本命選手の失格で、ファンが放火、強奪騒ぎ。同様の事件が続発したため、9月、通産省は全国の競輪場を2ヵ月間休場にした。

毎日新聞社

▶第1回札幌雪祭（2月18日）大通り公園で開催。「裸像」「白熊」など高さ3～5メートルの巨大な雪像を中学・高校生が制作、冬は屋内にとじこもりがちの市民を楽しませた。

札幌市教育委員会提供

▶藤田嗣治、フランスへ（2月4日）軍部に協力して戦争記録画を描いていたのを非難されたことから日本を離れ、この日夫人とともにパリに到着、昭和30年に帰化した。

◀李承晩韓国大統領来日（2月16日）この日、米軍機で羽田に到着。18日まで、緊迫する冷戦下での反共政策についてマッカーサー元帥（写真右隣）と会談した。

毎日新聞社

▼中ソ友好同盟相互援助条約調印（2月14日）アメリカの対日政策、アジア戦略に対抗して、侵略を受けた時の軍事同盟と、経済的提携強化を目的とした。写真は署名する周恩来中国首相兼外相。

昭和25年2月

1（水）●ソ連、天皇を戦犯として裁くよう要求。

2（木）●東京・新橋の洋服店で短銃らしきものを持った男が、オーバー一着を奪って逃走。

3（金）●参院、哈達河開拓団の婦女子が強制集団自決した事件（20年8月）の公聴会を開く。

4（土）●闇米価格低落、公定価格割る地域もと新聞に。

5（日）●川崎競輪で観衆二万人が八百長と激高し騒動。
●住宅新・増改築の規模制限を全面撤廃。

6（月）●GHQ、前年一二月に工業水準が昭和七～一一年度平均の水準に達したと発表。

7（火）●AP通信の水泳選手人気投票で古橋が二位。

8（水）●丸木位里・赤松俊子、「原爆の図」第一作発表。
●中小企業庁長官・蜷川虎三、吉田内閣のデフレ政策に反対し辞表提出。

9（木）●米上院議員マッカーシー、国務省に五七人の共産党員と演説。「マッカーシー旋風」始まる。

10（金）●GHQ、沖縄に恒久的基地を建設と発表。

11（土）●石原産業、除草剤2・4－Dの製造を開始。

12（日）●一部のソ連引揚げ者、共産党の徳田書記長が反動は帰国させないようソ連に要望、と非難。

13（月）●都教育庁、「赤い教員」二四六人に退職勧告。

14（火）●中ソ友好同盟相互援助条約、調印。

15（水）●川崎港でガソリンに引火。二三隻が全半焼。

16（木）●暖冬による増水で水力発電好調、東北・関東・中部・北陸・関西地区の電力制限を全面解除。
●夫の暴行から失踪を繰り返した歌手・並木路子が、離婚訴訟を提起。

17（金）●警視庁、N・メイラー『裸者と死者』（山西英一訳）を猥褻として回収指示。

18（土）●第一回札幌雪祭。中・高生制作の六基陳列。

19（日）●後楽園競輪に五万人の人出で入場制限実施。

20（月）●山田耕筰・宮城道雄・徳川夢声に第一回NHK放送文化賞。

21（火）●参院文部委、元号廃止問題の正式議題化決定。

22（水）●牛乳・バターなど乳製品の価格統制廃止。

23（木）●都教育庁、二部授業は九月から解消と発表。

24（金）●戦後初の韓国米一〇万トン輸入を正式契約。

25（土）●東京で事業不振を苦に一家一〇人心中はかる。

26（日）●山本薩夫監督「暴力の街」封切。

27（月）●平和を守る会発足（「平和擁護日本委員会」の前身。5月、原爆禁止署名運動開始）。

28（火）●香川県財田村で闇ブローカー刺殺（財田川事件。4月1日青年逮捕。59年、冤罪で無罪）。
●第二代最高裁長官に田中耕太郎が決定。

共同通信社

▲アメリカ博覧会（3月18日）5月31日まで約2ヵ月半、兵庫県の阪急西宮球場一帯の約6万坪を会場に行われた。主催は朝日新聞社。アメリカ文化を象徴する最新科学機器、都市や建築物のパノラマなどを展示して大盛況だった。

共同通信社

▲園児も男女仲よくダンス（3月8日）ソシアルダンスが流行する一方で、アメリカからもたらされたフォークダンスの一種、スクエアダンスが学校の体育授業などを通じて全国に広がった。写真は東京・浅草の幼稚園で下駄ばきで踊る園児たち。

朝日新聞社

▲「模範答案集」のはしり（3月4日）東京・三田の慶応大学入学試験場で三田英字新聞会の学生が、試験を終えた受験生を相手に販売。ガリ版刷りの英語の解答1部が10円。2日間で700部を売った。

毎日新聞社

▲文学座、拠点新築へバザー（3月4日）創立12周年を期し自前の稽古場を建設、7月落成に向け資金集めをはかった。この日は公演中の劇場で団員自作の人形などを販売、創立以来の指導者・岸田国士（59）も色紙を売った。右は女優・杉村春子（41）。

朝日新聞社

▲中小企業主らが怒りのデモ（3月17日）日本経済の自立をはかるドッジ・ラインで零細企業は深刻な危機。これに池田蔵相が「多少の犠牲はやむなし」と発言、火に油を注いだ。

▼「湘南電車」走る（3月1日）東京―沼津間124キロの長距離を初めて電車化。座席のクロスシート化、扉を両端に移すなど快適さを追求。茶系に代わるオレンジとグリーンの鮮やかな色彩で新時代をアピールした。

交通博物館提供

昭和25年3月

1（水）●自由党結成。民自党・民主党連立派が合同。
●池田蔵相、会見で「中小企業の倒産や自殺はやむをえない」趣旨の発言。国会で問題化。

2（木）●女子プロ野球の「日本女子野球連盟」発足。
●英バレエ映画「赤い靴」封切（赤い靴が流行）。

3（金）●自由労働者が完全就労要求し、東京・八王子職安に座りこみ。六八人検束（以後各地で）。

4（土）●東京の慶大入試会場で三田英字新聞会が「模範答案集」の販売を始める。

5（日）●卵の値段急落し一個九円の店も、と新聞に。

6（月）●「スポーツニッポン」東京でも発行開始。

7（火）●GHQ、戦犯の仮釈放制度を制定と発表。
●孝宮和子内親王と結婚する鷹司平通が「朝日新聞」声欄に「二人を放っておいて」と投書。

8（水）●吉田首相、歯舞諸島は日本に帰属と答弁。

9（木）●学童の近視・虫歯が激減と文部省調査。

10（金）●東京・日本橋に「何でも一〇円」の店開店。

11（土）●辻政信が戦犯解除で再び姿消した、と新聞に。

12（日）●天皇、四国巡幸の旅に出発。

13（月）●GHQ、沖縄の基地建設に入札する日本業者第一陣二〇社が現地視察をすると発表。

14（火）●大学設置委員会、短大一一三校新設、同志社大など三校に初の新制大学院設置を決定。

15（水）●五〇銭以下の貨幣・紙幣は廃止と造幣庁長官。

16（木）●京都・高台寺の国宝の茶室時雨亭、破壊される。

17（金）●「全国中小企業危機突破国民大会」開催。

18（土）●西宮球場で「アメリカ博覧会」開幕。

19（日）●世界平和擁護大会、核兵器禁止のストックホルム・アピールを採択。
●佐田啓二主演「乙女の性典」封切。

20（月）●上野の在日本朝鮮人連盟台東会館を強制接収。在日朝鮮人ら四〇〇人と警官隊が衝突。

21（火）●今井正監督「また逢う日まで」封切。

22（水）●吉村公三郎・新藤兼人らが近代映画協会結成。

23（木）●平泉の中尊寺で藤原氏四代のミイラ調査開始。

24（金）●田中千代、日本初の着物ショーを開催。

25（土）●炭労、全国三六〇組合三一万人がスト突入。

26（日）●伊豆大島沖で漁船「盛徳丸」遭難。一三人死亡。

27（月）●京大花山天文台、初めて火星をカラー撮影。

28（火）●砂糖入りキャラメル配給開始。月に一人三箱。

29（水）●サマータイムを五月第一日曜からに繰り下げ。

30（木）●都内小・中・高校の修学旅行が認可制になる。

31（金）●日本が中国から略奪した金塊六八万トン相当が台北に到着。

月刊沖縄社

▲**基地恒久化への道(4月19日)**琉球米軍政府は、戦争で失われた沖縄の土地台帳に代えて土地の所有者を特定する証明書の発行に踏みきった。この結果、米軍は土地所有者と正式の貸借契約を結べることになった。写真は「土地所有権証明布告」の公布式。左端がシーツ軍政長官。

毎日新聞社

▲**熱海市で大火、心臓部が全滅(4月13日)**渚海岸埋め立て地の土木事務所から出火、潮風にあおられた火が市中心部に広がり、市役所、警察署など千余戸、旅館47軒が灰燼に帰した。原因はマッチの火のポイ捨て。

朝日新聞社

▶**新型電光ニュース(4月11日)**「電送サイン」と名づけられ、東京・渋谷駅前の東横百貨店壁面に登場。従来の電球式と異なり、昼間でも見やすくなった。

▼**ディオールがロンドン初進出(4月25日)**サボイ・ホテルを会場に豪華ショーを展開。ディオールは3年前にロングスカートを発表、その流行で世界的名声を得ていた。

ユニフォト・プレス

▲**第1回全国植樹祭(4月4日)**緑の週間が例年どおり1日から始まり、この日、甲府市で天皇・皇后が桧の苗を植えた。崩御後は誕生日だった4月29日が祝日「みどりの日」、23日からの1週間が「みどりの週間」となった。

共同通信社

▼**帰らぬソ連の日本人捕虜(4月25日)**22日、「信濃丸」が舞鶴に帰港。ソ連はこれで引揚げ完了としたが、まだ約37万人が未帰還だった。写真は再会をはたせず悲しみにくれる家族たち。

昭和25年4月

1(土)●魚・酒など一四品目の統制を廃止。
●国鉄運賃改定。東京—京都六〇〇円は変わらず、東京—下関一二〇〇円が九二〇円に。
2(日)●吉川英治、「週刊朝日」に「新・平家物語」を連載開始。
3(月)●トヨタ自動車工業、販売部門を独立させトヨタ自動車販売を設立。
4(火)●甲府市で第一回全国植樹祭開催。
5(水)●ボクシング協会、引退勧告を拒否するピストン堀口に出場禁止処分。
6(木)●トルーマン米大統領、J・F・ダレスを対日講和担当の国務省顧問に任命。
7(金)●物価庁、タイヤ・自転車・リヤカー・食酢・水飴など一一品目の公定価格を廃止。
8(土)●金沢市で全日本宗教平和博覧会開幕。
9(日)●原爆孤児七一人を引きとる米人養父母の名簿が、アメリカから広島に届く。
●米から放射性同位元素(アイソトープ)初輸入。
10(月)●東京・上野公園の夜桜ダンスパーティーで、一四六人を売春取締条例違反で吉原病院に収容。
11(火)●群馬県安中町周辺住民の反対請願・陳情が続く中、建設省は東邦亜鉛工場の拡張を許可。
12(水)●都営住宅の公開抽選。最高競争率は三〇〇倍。
13(木)●熱海市で大火。中心部の一〇一五戸が全焼。
14(金)●横須賀市で京浜急行のトレーラーバスが走行中炎上。一七人焼死、三〇人負傷。
15(土)●元首相・東久邇稔彦、「ひがしくに教」開教。
16(日)●学生アルバイト難で頼みは参院選、と新聞に。
17(月)●都から二三区への移譲権限決定。区職員の人事権や都営浴場の管理権など。
18(火)●衆院本会議、カラー映画振興などの決議可決。
19(水)●鉱工品貿易公団横領事件で、早船恵吉が自首。
20(木)●厚生省、通話料滞納のため二時間電話不通に。
21(金)●蜷川虎三、京都府知事に当選。初の社会党知事。
22(土)●日本戦没学生記念会(わだつみの会)結成。
●山本富士子、初の「ミス・日本」に選ばれる。
23(日)●アベックの女性だけを殺す事件が東京で続発。
24(月)●警視庁、砂糖の大量横流しで東洋製菓を摘発。
25(火)●西宮市の甲子園動物園(現・阪神パーク)再開。
26(水)●警視庁、「軍隊式」盗賊団二一〇人を検挙。
27(木)●大野伴睦、昭電事件の収賄容疑で無罪判決。
28(金)●日本学術会議、戦争のための研究せずと決議。
29(土)●東宝、エノケン劇団や新国劇などと契約破棄。
30(日)●吉田内閣不信任決議案提出(翌日否決)。

証言・あの日この日
会津八一(68)

1月19日(木)〈正午、坂口の事務所へ行く。/中央公論社から稿料来る。/稿料は「中央公論」は一枚五百円なるが如し。/「芸術新潮」の斎藤十一から原稿を求め来る。一枚千円といふ〉(『会津八一全集』第十一巻)

坂口というのは、坂口安吾の兄で新潟日報社社主の坂口献吉のことである。永井龍男が副社長、吉田健一が渉外部長をつとめた「新夕刊」、足立巻一が記者にいた「新大阪」など、戦後の一時期、文化人たちが編集する質の高い夕刊紙がいくつも創刊され、短期間で消えていった。歌人の会津八一も坂口の要請を受け昭和21年、「夕刊新潟」を創刊し社長となる。同紙廃刊(24年)後も会津は「新潟日報」に関係する。原稿料に話を移せば、もりそば15円、国家公務員上級職の初任給約5000円の当時の500円、1000円である。(坪内祐三)

共同通信社

▲**「テレビ列車」15都市訪問へ(5月4日)**NHKが国鉄から列車2両を借用、仮スタジオと受像機を積み、静岡から宣伝巡回。写真は4月28日に東京駅で行われた公開風景。11月にはいよいよ定期実験放送が始まる。

▶**市丸、米TVに出演(5月21日)**昭和8年の「天竜下れば」で一世を風靡、戦後「三味線ブギ」で復活した芸者出身の歌手。作曲家・古賀政男らとハワイ、米本土を演奏旅行中のこの日、サンフランシスコのテレビに出演した。

◀**孝宮和子内親王(20)、結婚(5月20日)**天皇家から一般家庭への初のお嫁入り。花婿は元公爵家出身の鷹司平通氏(26)。東京・高輪の光輪閣で行われた式に天皇・皇后両陛下が出席した。

▼**「独立」へ向け国論二分(5月1日)**国際社会への早期復帰をねらう吉田内閣は単独講和を望んだが、全面講和を主張する声も強かった。写真は東京のメーデー集会に登場した「全面講和」のむしろ旗。

毎日新聞社

▲**「帝銀事件」公判に野次馬(5月10日)**12人毒殺を疑われる平沢貞通被告は一貫して無実を主張したが、昭和30年、死刑確定。しかし刑は執行されず、62年、95歳で獄死した。

毎日新聞社

昭和25年5月

1(月)●パンなど、米をのぞく主食が自由販売となる。
●北海道開発庁、設置。
2(火)●彫刻家イサム・ノグチ来日。
3(水)●自由党の秘密議員総会で吉田首相、全面講和論の南原東大総長を「曲学阿世の徒」と発言。
4(木)●NHK、スタジオ積んだテレビ列車巡回開始。
5(金)●県営宮城球場の毎日対大映戦で、開門と同時に観衆がなだれこみ、三人死亡。
6(土)●日本相撲協会、横綱審議委員会の設置を決定。
7(日)●大阪警視庁、街頭での宣伝放送禁止を通達。
8(月)●日立製作所、五五五五人の人員整理を発表。
9(火)●日銀、金融引き締めへの協力を各市銀に要請。
10(水)●関東で狂犬病が大流行、狂犬二八一頭、被害五九五人で一六人が死亡と厚生省調査。
11(木)●国鉄、東京—大阪間に特急「はと」の運行開始。
12(金)●靴・鞄・グローブなど革製品の公定価格廃止。
13(土)●東京第二国立病院で看護婦一二人が集団赤痢。
14(日)●長野県上松町で火災。全町の七割が焼失。
15(月)●ブラジル、日本の在外事務所設置を認める。
16(火)●美空ひばり、ハワイ・米公演のため羽田出発。
17(水)●寿屋がサントリー・オールド新発売と広告。
18(木)●米当局者、沖縄返還計画は皆無と言明。
●轟夕起子主演「細雪」封切。
19(金)●岡山県、初の有害図書取締り条例を制定。
●北大の桂田芳枝、数学で女性初の理学博士に。
20(土)●孝宮和子内親王と鷹司平通が結婚。
21(日)●古賀政男らと米演奏旅行中の歌手・市丸が、サンフランシスコのテレビに出演。
22(月)●仏への留学制度が一〇年ぶりに復活と新聞に。
●沖縄初の大学、琉球大学で第一回入学式挙行。
23(火)●再建中の東宝、九五〇人に整理通知と発表。
24(水)●井伏鱒二・斎藤茂吉らに第一回読売文学賞。
25(木)●白井義男、全日本バンタム級王位を防衛。
26(金)●獅子文六、「朝日新聞」に「自由学校」連載開始。
●引揚促進全国協、『ソ連残留者白書』を発表。確実な人だけで一万九〇〇〇人。
27(土)●対日理事会ソ連代表部四九人が突如帰国。
28(日)●大相撲夏場所で横綱東富士が三度目の優勝。
29(月)●世界救世教教祖・岡田茂吉、脱税容疑で逮捕。
30(火)●皇居前広場での人民決起大会で占領軍関係者五人への暴行事件(五・三〇事件)。
●三遊亭歌笑、占領軍のジープにはねられ即死。
31(水)●富士産業(旧・中島飛行機)が富士工業など一二社を第二会社として設立する計画認可。

▼共産党中央委員24人、公職追放(6月6日)マッカーサーは前月「共産党は破壊的宣伝を遂行している」と示唆したが、この日ついに、吉田首相宛の書簡でレッドパージを本格化させた。写真は緊迫する日本共産党本部。

共同通信社

▲「はとガール」誕生(6月15日)東京—大阪間を5月11日から走った特急「はと」に、この日から女子職員が乗務、旅客サービスにあたった。写真は「はと」1等展望車。

共同通信社

▼朝鮮戦争義勇兵募集(6月29日)韓国居留民団系の大韓青年団大阪支部が主催、府下27支部から3000人が志願した。自称元特攻兵という日本人もいたが、拒否された。

共同通信社

▲人類初の8000メートル峰登頂(6月3日)フランス隊のエルゾーグ(左)とラシュネルが、ヒマラヤのアンナプルナ(8078メートル)を征服した。

ROGER-VIOLLET/ユニフォト・プレス

▼苦難の引揚げ(6月28日)この年になってもまだ終わらず、この遅延が後に中国残留孤児問題など多くの悲劇を生んだ。写真は朝鮮からの引揚げ者。国際結婚に破れた女性のチマ・チョゴリ姿もあった。

毎日新聞社

昭和25年6月

1(木)●都内の輪タクが免許制になる(11月までに一〇〇社が二社に激減)。
2(金)●警視庁、皇居前広場と日比谷公園のデモ・集会使用を永久禁止方針と発表。
3(土)●文部省、戦後初の鉄筋校舎建設で全国一八のモデル校を決定。
4(日)●日本写真家協会(会長・木村伊兵衛)結成。
5(月)●首都建設法、住民投票の結果成立。
6(火)●マ元帥、共産党中央委員全員の公職追放指令。
●住宅金融公庫発足。
7(水)●四月の酒税引き上げで酒の売れ行き悪化、メチル酒が横行し国税庁は悲鳴、と新聞に。
8(木)●米上院、永住権持つ日本人の帰化承認と決議。
9(金)●信越線熊ノ平駅で土砂崩落。五〇人死亡。
10(土)●片岡美智、ソルボンヌで日本人女性初の仏の最高学位(文学博士)を取得。
11(日)●第一七回日本ダービー。クモノハナ優勝。
12(月)●警視庁、「きけわだつみの声」試写中止を通告。
13(火)●文部省、学生が学外での政治集会やデモに参加することを禁止する文相談話を発表。
14(水)●「ロマンス」誌などの発行元ロマンス社が破産。
15(木)●初の暑中見舞いはがき発売。一枚二円。
16(金)●政府、デモ・集会の全面禁止を全国に指令。
17(土)●住宅金融公庫、第一回貸し付け細則を発表、二万戸を募集。
18(日)●共産党、志賀義雄・宮本顕治ら"国際派"を活動停止処分。
19(月)●"エロ本監視役"風紀防犯協力委員会が発足。
20(火)●閣議、肥料公団廃止・肥料統制撤廃を決定。
21(水)●米から上野動物園に送られるライオン・ピューマ・コヨーテ計一一頭が横浜に入港。
22(木)●「高栄丸」、鋼材積み戦後初の南米航路に就航。
23(金)●八幡署、海上保安庁事務官を密輸容疑で逮捕。
24(土)●六大学ハワイ遠征野球チームが横浜を出港。
●赤痢が五〇年ぶりに大流行、と新聞に。
25(日)●朝鮮戦争、勃発。
26(月)●最高検、『チャタレイ夫人の恋人』(伊藤整訳)を猥褻として押収を指令(7月8日発禁)。
27(火)●米大統領、韓国支援のため海空軍に出動命令。
28(水)●北朝鮮軍、韓国の首都ソウルを占領。
●巨人の藤本英雄、青森球場での対西日本戦で日本初の完全試合を達成。
29(木)●朝鮮戦争で北九州に警戒警報が発令される。
30(金)●東証株価が急落。再開以来の最安値をつける。

▲球団別のブース。ここには現在活躍中の選手のユニフォームやバット、グラブなどが並べられている。

20世紀博物館

野球体育博物館

歴史から日々更新されるデータまで野球のすべてがわかる

東京・文京区

桑原茂夫

▲大スター、川上の赤バット(手前)と大下の青バット。青バットとはいえ緑色だった。

▼ホームランの王、盗塁の福本など、世界的な記録を樹立した名選手のコーナー。

昭和二五年は、日本のプロ野球にとって大きな意味を持つ年だった。終戦を待ちかねていたかのように復活したプロ野球は、数少ない大衆娯楽のひとつとして人気を博したが、この年、それまでの一リーグ制から、本場アメリカと同じような二リーグ制となった。今に続く本格的なプロ野球の基盤ができたのである。

弾丸ライナーを飛ばす赤バットの川上哲治や青バットのスラッガー・大下弘など、個性的なスター選手も続々とグラウンドに姿を現し、観衆を沸かせた。

それから一〇年たらずの間にさらに発展したプロ野球界が中心となって、昭和三四年、この「野球体育博物館」が設立された。当時は後楽園球場に隣接する建物だったが、"ビッグエッグ"東京ドーム建設とともにドーム内に入った。

博物館の中には、野球の発展に功績のあった人を顕彰する「野球殿堂」や、これまでのプロ野球の各種データが入力されているデータルーム、野球に関する三万点にもおよぶ図書・雑誌資料を収蔵している図書館もあり、まさしく野球のことなら何でもわかる博物館なのである。

しかも野球は過去のものではない。データは次々に更新され、日日新しい資料が加わる。展示もまた現在進行形のコーナーを設けざるをえない。

というわけで、イチローや松井など、現役の人気選手のユニフォームやバット、グラブなどの用具類が、チームごとのブースに展示されている。

もちろん、プロ野球の歴史をじっくりたどるコーナーもある。

そこにはたとえば、今は故人となってしまった巨人の藤本(後に中上)英雄投手が、日本で初めて完全試合をなしとげた時のスコアブックが展示されており、目を近づけて見ると、相手の西日本パイレーツの四番が、なんと！ すぐ後に巨人で活躍した南村不可止選手だったことを発見できたりするのである。

また、アメリカ大リーグの伝説的名選手、タイ・カップのサインボールが、にわかに彼の存在をリアルなものにさせたかと思うと、ベーブ・ルースのイラストを大きくデザインしたポスターが、やけに際立って見える。

これは、昭和六年のもの。アメリカ大リーグ選抜チーム初来日を告げる記念すべきポスターなのだが、その背後に思いがけぬ逸話が隠されていた。

この計画に、当初乗り気ではなかったスーパースター、ベーブ・ルースが、すでにできあがっていたこのポスターを見せられ、その出来映えに感心するとともに、日本のファンがいかに"ベーブ・ルース"の来日を期待しているかを知って、ついにイエスと言ったという、いわくつきのポスターなのであった。

野球の記憶が人生の記憶の一部を占めている人にも、野球に興味を持ち始めた人にも、実に意義ある博物館だ。

▼ベーブ・ルースに来日をうながしたという記念すべきポスター。

●野球体育博物館
東京都文京区後楽一—三—六一
☎〇三—三八一一—三六〇〇
JR総武線、地下鉄三田線水道橋駅、地下鉄丸の内線、南北線後楽園駅より徒歩五分
開館時間＝四月一日～九月三〇日 一〇時～一八時、一〇月一日～三月三一日 一〇時～一七時
休館日＝月曜日(祝日の場合は翌日、春・夏休み中の月曜日は開館)、年末年始
入館料＝一般四〇〇円

ベストセラー

“戦争と人間”のドラマを描く『きけわだつみのこえ』『帰郷』

戦没学生の日記や手紙を集めた『きけわだつみのこえ』（日本戦歿学生手記編集委員会編）が、前年の昭和二四年秋に刊行され、この年ベストセラーになった。この本の前身は二二年に刊行された『はるかなる山河に』で、これは二〇万部を超えるベストセラーになったが、東大の戦没学生に限っていたため、あえて絶版にし、新たに全国から出陣学徒の手記を集めて編集したものである。

戦地でのあえぎ、恋人への思い、肉親への愛、自然への讃歌等々、ここに収録されたものは、どちらかというと、反戦に近い気分を記したものが多い。しかし、それでもなお、みずからを奮い立たせるようにして死地に赴く若者。戦争の実態がひしひしと伝わってくる。まして、頭から“聖戦”であることを信じて、微塵も疑うことのなかった学生たちが残したものには、さらに、この戦争を浮き彫りにするものがあったのではないだろうか。

戦争の記録ではないが、戦争をしっかりした目でとらえ、人間ドラマとして描き出した、大佛次郎の『帰郷』も人気を呼んだ。戦前に日本を追われ、戦争中はシンガポールの華僑の家にかくまわれていた守屋恭吾が主人公。日本を離れ、ボヘミアンを自称する男の目は、戦争中の日本にはありえなかった冷静沈着な目であり、そこから戦後の日本を見た。

かつて守屋を憲兵に訴えた女、守屋の友人で海軍将校だった男、今はすっかり成長した守屋の娘といった面々にドラマを演じさせることによって、終戦直後の日本をリアルに描き出した。

なお、人気作家・石坂洋次郎の『石中先生行状記』は、ユーモラスな自伝的小説として、前年からの人気を保った。

●昭和25年のベストセラー

順位	書名（著者／出版社）
1位	「細雪」（谷崎潤一郎／中央公論社）
2位	「潜行三千里」（辻政信／毎日新聞社）
3位	「風と共に去りぬ」（M・ミッチェル／三笠書房）
4位	「石中先生行状記」（石坂洋次郎／新潮社）
5位	「帰郷」（大佛次郎／六興出版社）
6位	「チャタレイ夫人の恋人」（D・H・ローレンス／小山書店）
7位	「きけわだつみのこえ」（日本戦歿学生手記編集委員会編／東大協同組合出版部）
8位	「少年期」（波多野勤子／光文社）
9位	「裸者と死者」（N・メイラー／改造社）
10位	「十五対一」（辻政信／酣燈社）

全国出版協会出版科学研究所

▲日本戦歿学生手記編集委員会編『きけわだつみのこえ』（東大協同組合出版部、200円）

日本近代文学館提供

▲大佛次郎『帰郷』（六興出版社、220円）

▲石坂洋次郎『石中先生行状記』（新潮社、190円）

スターと名場面

“クロサワ”の名前が世界にサイコ・ミステリー「羅生門」

この年、日本映画史に大きなエポックをもたらした作品が公開された。黒澤明監督の「羅生門」である。芥川龍之介の『藪の中』を原作とするこの映画は、ある事件をめぐる当事者の証言が食い違い、真相は藪の中という趣向になっている。

森の中を行く侍（森雅之）とその妻（京マチ子）、その二人に襲いかかり妻を犯す野盗（三船敏郎）、それを目撃した男（志村喬）、それぞれの証言が具体的な映像となって提示されるから、どれもが本当らしく見えて、どれもが信じられない。サイコ・ミステリーの傑作だったが、公開の翌年、ベネチア国際映画祭でみごとグランプリを獲得、一躍“クロサワ”の名が世界に知れわたった。

戦争の真相もそれこそ藪の中だったが、戦没学生の手記を映画化した「きけわだつみの声」がこの年公開された。関川秀雄監督自身が出陣学徒だっただけに、敗戦直前の南方戦線における軍隊内部の矛盾を、鋭く追及する内容となった。

美空ひばりの「東京キッド」（斎藤寅次郎監督）が、ひばりの天才ぶりと、エノケン、アチャコ、堺駿二らの芸達者ぶりを見せたのもこの年だった。

なお、ほかに次のような作品が公開されている。かっこ内はおもな出演者。「また逢う日まで」（岡田英次、久我美子）、「宗方姉妹」（田中絹代）、「自転車泥棒」（ランベルト・マジョラーニ）、「腰抜け二挺拳銃」（ボブ・ホープ）

黒澤プロ　大映提供

▲「羅生門」で、自分を犯した野盗（三船敏郎）に、夫を殺せとそそのかす女（京マチ子）。木漏れ日のさす森の中が背景になっている（撮影・宮川一夫）。

東映提供

▲次々と倒れていく出陣学徒。「きけわだつみの声」の1シーン。

松竹提供

▲「東京キッド」で、達者な歌や演技を披露した、13歳の美空ひばり。

モノ語り'50

「リコーフレックスⅢ」「パーカー51」「ホンダドリームD型」“高級品”の大衆化時代が始まった！

▶本格的モーターサイクルの登場　自転車の延長線上にあったオートバイから、本格的なオートバイへ、華麗な変身をとげた「ホンダドリームD型」が、本田技研工業から発売された。クラッチ操作が不要という画期的なメカニズムが運転を容易にし、いよいよオートバイ大衆化の幕が切って落とされることになった。

▲野球とともにあったキャラメル　この頃子どもたちを夢中にさせたものに「紅梅キャラメル」がある。紅梅製菓が1箱10粒入り10円で発売した。そのキャッチフレーズに“野球は巨人、キャラメルは紅梅”とあるように、1箱に1枚入っている巨人軍の選手カードがヒットの要因だった。カードを集めてチームを構成すれば、子どもたちの夢だったバットや小型カメラを手にすることができたのである。写真は昭和30年頃の新紅梅製菓発売のもの。

玉井浅次郎所蔵

▶カメラを誰でも買える機器にしたカメラ　本格的なカメラとして、ステータスシンボル的な存在だった二眼レフは、大卒者の初任給が5000円に満たない時代に、外国製で十数万円、国産でも数万円もしていた。そこへ理研光学工業（現・リコー）は7300円という低価格で、6×6判二眼レフ「リコーフレックスⅢ」を発売した。量産体制を確立することによって、高性能・低価格を実現させたのだが、これが大ヒット。最盛期には日本のカメラ生産台数の50パーセントを上回った。

◀アメリカを代表する万年筆が上陸　アメリカの万年筆メーカー、パーカーの自信作「パーカー51」が、この頃日本にも輸入・販売された。横から見ると、翼のないジェット機のようなラインを持つデザインは、これまでの万年筆の概念を超えるもので、同時に発売された速乾性の「ハイベロシティ51インク」とともに、いかにも“優れたアメリカ”を感じさせた。

▲健康な生活のための医療機器　日本人には胃の病気が多いが、この年、その診断精度を上げる「胃カメラ」が、東大の宇治達郎氏とオリンパス光学工業によって開発された。内臓を直接のぞく“内視鏡”的発想を、いったんカメラで撮影するという発想に切りかえて成功した。先端部に超小型カメラと豆ランプのフラッシュを取り付けたもので、手元の遠隔操作で撮影し、診断に役立てた。

▶“お肌の老化”に対処した化粧品　“25歳以下の方はお使いになってはいけません”という衝撃的コピーで、これまでにない化粧品であることを強く印象づけた下地クリーム「マダムジュジュ」が、ジュジュ化粧品から40グラム入り150円で発売された。この頃の化粧品はもっぱら若い人向けで、年齢層別の商品はなかった。そこへ25歳から肌の老化が始まるという科学的根拠を得て、新しい市場を開拓、年間数百万個売れる大ヒット商品となった。

▲音をたてて水の上を走る玩具　「ポンポンポン」と焼き玉エンジンの軽快な音をたてて水路を往来する“ポンポン蒸気船”を模した「ポンポン船」が、この頃大流行した。縁日などで、デモンストレーションを行いながら販売された。ろうそくの熱で水タンク内の水を熱し、タンクを膨張させて水を排出・噴射させ、推力を得る玩具で、そのメカニズムも人気の要因だった。

人物クローズアップ

三遊亭歌笑（三二）

「おかしくて、そして哀しい」戦後最大の"爆笑王"が事故死

◀時代に笑いを与えた歌笑とコメディアンたち。前列左から古川ロッパ、榎本健一、後列左から山茶花究、並木一路、内海突破、坊屋三郎、歌笑、益田喜頓。

昭和二五年五月三〇日の午後七時四五分頃、評論家・大宅壮一との雑誌対談を終え、銀座六丁目の電車通りを急ぎ足で横切ろうとしていた"爆笑王"、落語家の二代目三遊亭歌笑（三二）が、疾走して来たアメリカ兵の運転するジープにはねられ死亡した。死因は脳内出血で、即死だった。

この事故の報道は、翌日の新聞に小さく、さりげなく掲載されている。事故を起こした相手が占領軍の兵士とあって、当時の事情からそうした扱いになったものだが、結局、ひき逃げ犯人もうやむやになったままである。

三遊亭歌笑は、本名・高水治男。大正六年九月二二日、東京都西多摩郡五日市町（現・あきる野市）に生まれた。幼時から、強度の弱視に加え極端な斜視だった。後、高座に上がるようになってから、客席に向かって一方の肩を突き出すように、斜めにかまえて座ったのも斜視のせいである。えらが張ったホームベースのような顔の輪郭。それに、口がやたら大きい割には、鼻が小さく申しわけ程度についている。奇相・珍顔である。そういう面相のせいで、小さい時から馬鹿にされて育った。

そんな青年が落語界に身を投じたのが昭和一二年。三代目三遊亭金馬に弟子入りし、金平を名乗った。さらに一四年、金馬の兄弟弟子である二代目三遊亭円遊の預かり弟子になる。これを機に、金平の落語は古典から新作へ変わっていった。一五年、金平は二つ目になった。「歌笑純情詩集」という、戦後爆発的にヒットした演目はこの頃から始まり、テンポのよさで人気を得ていく。

弱視に斜視のため兵役をまぬがれた金平は、二二年真打ちになり、二代目歌笑を襲名した。しかし、身内の落語界は、歌笑の芸を正当に評価しなかった。自然、歌笑は寄席から遠ざかる。日劇などの大舞台への出演がふえ、一般的な人気はますますうなぎ登り。そうなると寄席の方でも放っておけないというわけで、歌笑は戦後最大の"爆笑王"にのし上がっていった。

芸能評論家の矢野誠一氏は、こうした歌笑人気を「時代の変革期に、歌笑のような芸が現れるようです。旧い価値観が崩れて新しい時代になると、新奇なものが受けるんですね。歌笑はまさに、時代に乗ったと言えるでしょう」と語る。

"醜男"ゆえの美しいものへの憧れ。歌笑が朗々と語る「純情詩集」の美文調は、その反映である。そしてもうひとつは自虐性。

「七つ八つで帯解けて、一九二十は器量よし、世の移り変わりと共に怪異な容貌とはなりぬ……」。これは「歌笑綴り方教室」の「わが生い立ちの記」の冒頭である。自虐性をエネルギーに変えて作り上げた歌笑の世界。

歌笑が亡くなり、新築したばかりの家に弔問に行った放送作家の大西信行氏は、祭壇に飾られた歌笑の写真を見た時のことを、こう書いている。

「四角い顎に手を当てて、あの大きな口を開いて笑っている顔が、黒いリボンの中でもおかしくて、困った」（『落語無頼語録』）。おかしくて、そして哀しい。

▲二二子夫人（右）は歌笑のよき伴侶だった。

▲5月30日、大宅壮一（右）と対談、その帰途で事故にあった。

▲歌笑は、戦争に行かなかった戦時下に、古今東西の書籍を乱読したという。その成果が自作の「歌笑純情詩集」に結実した。　3代目三遊亭歌笑提供（4点とも）

決定的瞬間

「エビータ！ エビータ！」カリスマ性で民衆を熱狂させたアルゼンチンの〝聖女〟神話

マリア・エバ・ペロン、愛称〝エビータ〟は、アルゼンチンの首都ブエノスアイレスの大統領官邸バルコニーからマジョ広場に集まった群衆に向かって大きく手を振っている。一九五〇年一〇月二五日。貧困と非識字者をなくそうとした「ペロン運動」五周年を記念し、無数の旗、ペロン夫妻の写真、棒きれに巻きつけられたシャツがうち振られ、「ペーロン、ペーロン、エビータ！ エビータ！」という喚声が地鳴りのように沸き上がっている。エビータはこの時三一歳。まさに絶頂にあった時の、自信にあふれた姿をこの写真はとらえている。

振り返ってみると、彼女の短い人生は闘いの連続であった。母親は田舎町の地主の愛人であり、彼女は一九一九年四月二六日、五人兄妹の末っ子として、一間しかない貧しい家で生まれた。七歳の時に父が死んだが、葬式には列席させてもらえず、泣きながら墓地まで、ついて歩くことだけが許された。

一五歳でアコーディオン弾きの愛人となり、村を飛び出して女優になるためブエノスアイレスに行く。田舎訛りが抜けない、痩せた少女を相手にするプロダクションはどこにもない。それでも彼女はあきらめず、ラジオドラマの声優となり、やがて権力に最も近い位置にいた。二四歳年上のホアン・ペロン大佐と出会った。

後年彼女をインタビューした「ニューヨーク・タイムズ」の記者は、彼女のことを「信じられないほどユーモアを欠き、驚くほど精力にあふれている」と評している。彼女には、女優としての才能は欠けていたが、政治家としてはまれな才能と迫力が備わっていたようだ。一九四五年一〇月に二人は結婚する。

一九四六年六月、ペロンは大統領に就任した。彼の政策は、労働者や農民の生活水準を引き上げ、農産物輸出によって得た富を、工業化へと投資するというものであった。エビータはバルコニーから民衆に向かって、いささか早口に「ペロンこそ民衆を豊かにする」と情熱的に語りかけた。エビータのカリスマ性は、ペロンあってのエビータから、エビータあってのペロンへと人々の心を変えていった。二人のみごとな連携プレーだった。

バルコニーで満面に笑みを浮かべて演説するエビータ。実はこの写真に写っている彼女の肉体の奥底には、すでに癌細胞が忍びこんでいた。彼女は二年後の一九五二年七月二六日、子宮癌によるひどい痛みの中で死亡する。三三歳の若さであった。さらに三年後、ペロンはクーデターによってアルゼンチンを追われた。しかし政治の中の彼女の人生は、まだ終わっていなかったのだ。彼女の遺体は、ペロンが失脚した後、〝ペロニスモ〟の象徴として利用されることをおそれ、反ペロン派の手によってブエノスアイレスから消えた。その後、一九七一年にイタリアで発見され、一九七四年に遺体は再びブエノスアイレスに戻って来た。

彼女は死に際して「私が死んだら、赤いマニキュアをはがして、代わりに地味なのを塗ってちょうだい」と言ったそうだ。自分の死が、〝聖女〟エビータの誕生を意味することを自覚していたかのように。

▲1950年10月25日、甲高い声で「愛するデスカミサード(労働者)たちよ」と呼びかけるエビータ。彼女の演説は、聴衆を忠誠と献身の嵐の中に追いこんでいくかのようであった、と言われている。 キーストン

▲1951年5月25日、アルゼンチンの独立記念行事に出席するため、正装したペロン夫妻。 WWP

「現場」を歩く 京都

「優美さに嫉妬」と放火されて四八年目の金閣

山本徹美

▲昭和62年10月の大修理で美しい姿になった現在の金閣。三層の楼閣で、木部に金箔が貼られている。 松川裕

昭和二五年七月二日午前三時頃、通称金閣こと鹿苑寺舎利殿から出火。国宝である柿葺き三層楼は、内部に安置してあった国宝の足利義満木造座像などとともに全焼した。

京都市警は同寺徒弟の林養賢（二一＝僧籍名・承賢）を放火容疑でその日の午後七時頃、逮捕した。

金閣は出家入道した足利義満の命により、応永四年（一三九七）一月に起工、翌年五月完成した。以後、三回にわたる大修理を重ねながらも室町時代の建築美を伝承していた。それを灰にした林の動機は哲学的でさえあった。

「金閣の優美さに嫉妬したから」

林の放火兼国宝保存法違反事件第一回公判は犯行から三週間後の七月二四日に開廷。弁護側は被告の心神耗弱を主張、精神鑑定を要求した。鑑定人には当時京都大学医学部教授だった三浦百重医博（昭和四七年没）が任命された。三浦教授の問診に、林は以下のように告白した。

「ゆくゆくは此処（金閣）の和尚になってやれと思って居りましたが、それも出来なくなり」、「自分のみにくい態度が（金閣の）和尚にも解ってしまい」「和尚には金閣による収入があずけられていますし、金閣が無かったら、あつかましい事が言えんだろうと思いました」。

三浦教授は、林を精神病罹患者とは認めず、「分裂病質」と鑑定。京都地裁は林に刑事責任能力ありとし、同年一二月二八日、懲役七年の実刑判決を下した。わずか五ヵ月のスピード審理である。林の母親は犯行の翌日、列車から川へ身を投げ、自殺した。「あの子は国賊」と警察官に語っていたという。その言葉に代表される懲罰意識が背景に感じられる。

加古川刑務所に入所した林はほどなく分裂症、肺結核、拒食症などを併発。医療刑務所に移管されるなどしたが昭和二七年の恩赦で減刑され、昭和三〇年一〇月三〇日に出所。が、翌年三月七日入院先の病院で死亡した。

「世界遺産」に登録

金閣寺を訪ねてみた。同寺執事長の江上泰山氏（現・六一歳）は当時、林の隣室に起居する弟弟子だった。

「承賢さんは師匠からよく『ハッキリ物を言え』と叱られていました。それでもモソモソと喋るようなところがあった。禅では物事の善悪を明確にする。その点、あの頃の承賢さんには迷いがあったし、中途半端だったように思います」

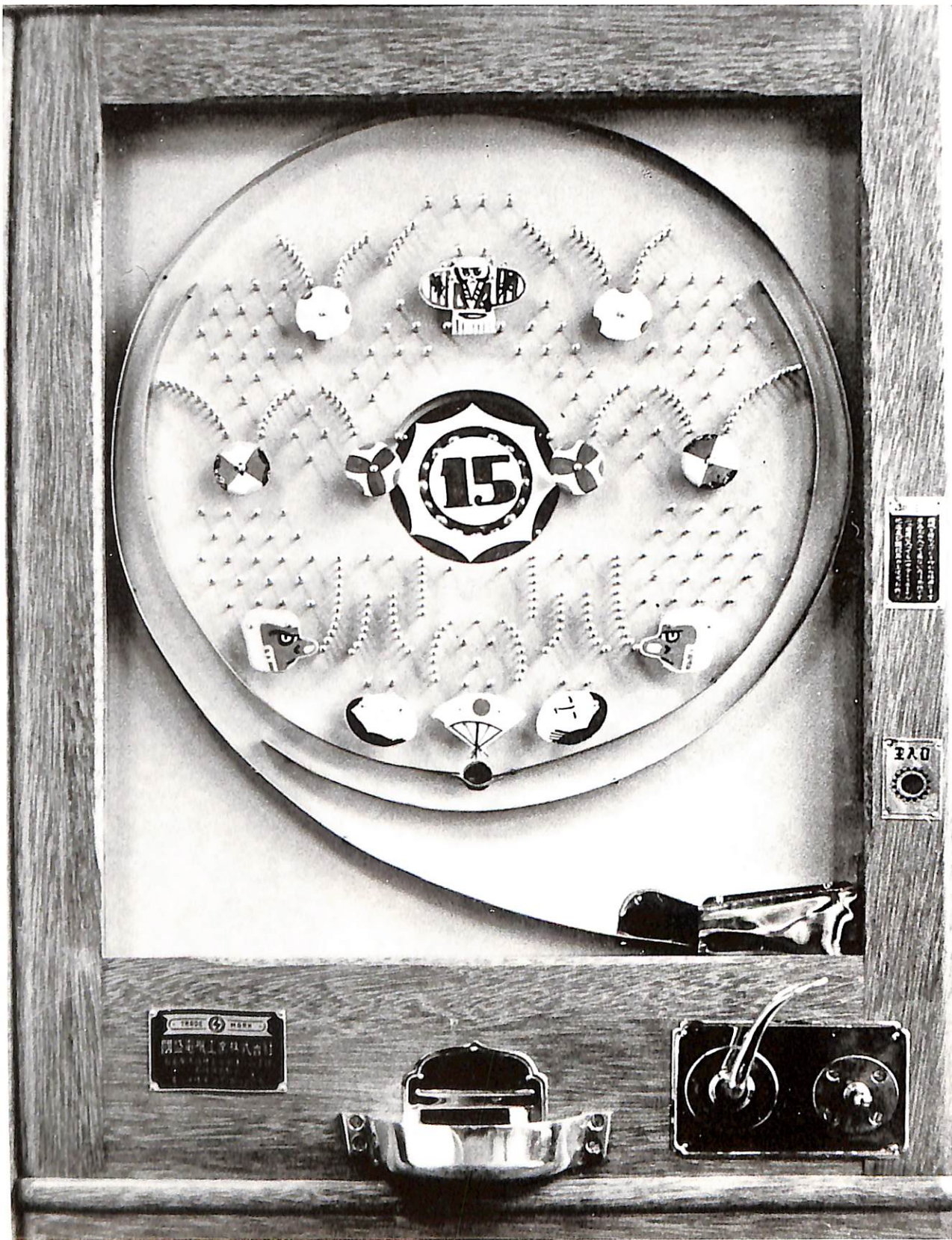
林が嫉妬の矛先を舎利殿に向けたのは明らかに筋違いである。

江上氏は昭和三〇年の復元工事に立ち会い、六二年の大修理にもたずさわった。

「舎利殿はもちろん、庭全体の設計の素晴らしさを味わっていただきたい」

平成六年一二月一五日、金閣寺はユネスコの「世界遺産」として登録された。

▲昭和25年7月2日の放火で焼け落ちた金閣。この事件にヒントを得て、三島由紀夫が小説「金閣寺」を発表する。

1日の売り上げは新宿繁華街の土地1坪に相当
画期的な「正村ゲージ」機登場で
パチンコブームが大爆発！

◀この頃製作された「正村ゲージ」による「オール15」の機械。「正村ゲージ」で玉の動きに変化と意外性が生まれ、パチンコの妙味が増した。 山田清提供

▼「パチンコの神様」と呼ばれた正村竹一。明治39年生まれ。「正村ゲージ」を創案。

山田清提供

娯楽に飢えた人々の前に、「正村ゲージ」という画期的なパチンコ機が登場した。あっというまに日本中を席巻、パチンコは一躍、大衆娯楽の王座を占めた。前年に四八一八軒だったパチンコ店はこの年を境に急増して、数年で一〇倍以上となり、売り上げも八〇億円に達した。

「正村ゲージ」の登場で大人のゲームに大変身

景気づけの「軍艦マーチ」や「買物ブギ」が甲高く流れていた。昭和二五年頃、町のそこここに、にわかにふえ始めたパチンコ店だった。屋根つき、バラック建

▲昭和27年、名古屋のパチンコ店のにぎわい。21年、まず名古屋に、次いで東京、大阪にパチンコ店が開業し、続いて全国に広まっていった。 山田清提供

てならばいい方だった。よしず張り、雨が降れば天井にシートを渡してしのぐ、にわか作りも普通だった。それでも人々は苦しい暮らしの憂さを晴らすかのように、パチンコ店へ詰めかけた。

当時、娯楽といえば、ラジオと映画くらい。そんな中でまったく突然に登場したのが、スリリングな興奮を呼ぶパチンコだった。それまでとは装いを新たにしたこのパチンコ機は製作者・正村竹一（四四）にちなみ、「正村ゲージ」と呼ばれた。従来の機械は「バラ釘」と言われる釘が盤面に均等に打たれ、玉のスピードものろく、玉が入るかどうかはもっぱら偶然によるものだった。

パチンコ専門誌の記者として業界を取材し続けてきた山田清氏が言う。

「『正村ゲージ』は『オール10』『オール15』など、業界で言う〝オールもの〟が相次いで作られ、飛ぶように売れました。それは現在の機械とほぼ同じで、風車をつけ、セーフ穴まで誘導路のような道がある。さらに、独特の釘配列によって玉のスピードがぐんと上がりました。スピーディーで、かつ技術がものをいうため、射幸心を刺激し、店に客が多く詰めかけました。一方、店側から見れば、玉が次々にさばけ、営業効果が上がった。これによってパチンコホールは企業としてやっていけるようになったわけです」

つまり、「正村ゲージ」の登場によって、パチンコは〝大人のゲーム〟へと大変身をとげたのである。

さらに〝改良〟は続く。その時点でのパチンコは、まだ当たり玉が出る時、いわゆる「チン、ジャラ」ではなかった。入賞しても「ジャラ」と鈍い音がするばかり。懸賞玉が、多くても三個か五個だったので、「ジャラ、ジャラ」でもなかったのだ。「チン」という音がするベルが取り入れられたのは、昭和二六年の暮れからだった。

新しく登場した正村ゲージは、またたく間に全国に普及しただけでなく、パチンコ店の数をも爆発的にふやした。昭和二四年には四八一八軒だったパチンコ店は、二五年には八四五〇軒、二七年には四万二一六八軒へとふえ続けた。ピーク時の昭和二九年には警察調べの数字でも、四万五三一七軒に達する。「そのほかに闇営業の店を含めると、全国で六万五〇〇〇軒はあったでしょう」（山田氏）

まさに爆発的ブームだった。この第一次ブームは、「正村ゲージ」と、続いて出された「連発機」の爆発的人気に支えられたもので、二六年当時のパチンコ産業は八〇億円とも推測されていた。しかし、博打的要素が強すぎるという判断で「連発機」は昭和二九年、当局により禁止される。だがそれまでの異様な過熱ぶりは、政治の話題ともなった。

昭和二七年、正月のNHK「政治討論会」で、〝青年将校〟として売り出し中の民主党代議士・中曽根康弘（後の首相）は要旨次のように述べている。

「パチンコの大流行は政治の貧困のせいだ。失政相次ぐ吉田内閣に希望の持てなくなった国民が、パチンコによって憂さを晴らしている。裏返せば吉田内閣がパチンコを奨励したとも言える」

店一日の売り上げが新宿の繁華街一坪分

パチンコといえば景品が付きものだが、戦後の焼け跡の中に出現したパチンコ店は、当初は、この景品に苦労していた。「正村ゲージ」以前の景品は、タバコ、芋飴、洗濯石鹸など闇市で仕入れたものが主流だった。子どものお土産用のバターボールもそれに続く人気だった。

この頃は景品額も、玉の価格もまちまち。しかし、玉の価格は二四年暮れ頃から一個二円で定着する。そして東京では、玉五個でタバコの「光」一本、七個で「ピース」一本が相場。タバコはまだ大変な貴重品だった。ちなみに「ピース」（一〇本入り）一箱の値段は昭和二二年一月で五〇円、二六年には四〇円となるが、二五年四月に五〇円と乱高下していた。交換レートは、現在より割高だが「遊んだうえで景品がとれる」と客がパチンコ店へ押しかけた。

昭和二五年、東京・小岩でパチンコ店を開いていた大木孝二氏はこう回想する。

「場所によっても違ったでしょうが、一日当たりの売り上げは悪いところで一〇〇〇円、よければ三〇〇〇〇円近かったでしょう。平均すれば二〇〇〇〇円くらい。それで儲けが七割近かったんです。ぼろい仕事でしたよ。だから私はこんな仕事、どうせ長続きはしない、半年でも一年でも続けられれば儲けもの、と思っていましたよ。ですから今日のような繁栄が来るなんて思いもしませんでした」

何しろ新宿の繁華街の地価が、坪二〇〇〇円前後の時代に、これだけの収益を上げていたのだ。ため息の出るような話なのである。

昭和二九年の「連発機」禁止のあおりで一時、低迷していたパチンコは、その後「チューリップ」や昭和五六年の「フィーバー機」の登場で、今や二四兆円（平成八年実績、余暇開発センター調べ）という一大産業に成長している。

▲青森県小湊の小児科医院待合室の光景。パチンコブームは全国に普及、医院にまで登場した。 毎日新聞社

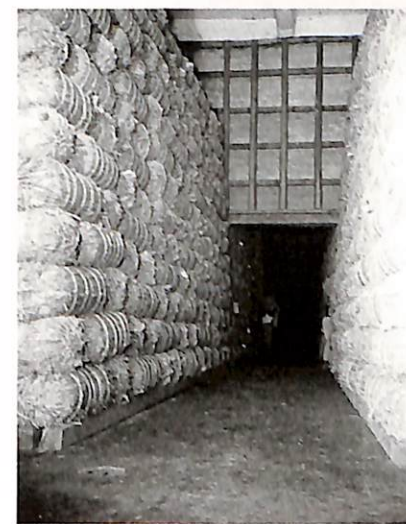
フォト＋日録で再現する365日

共同通信社

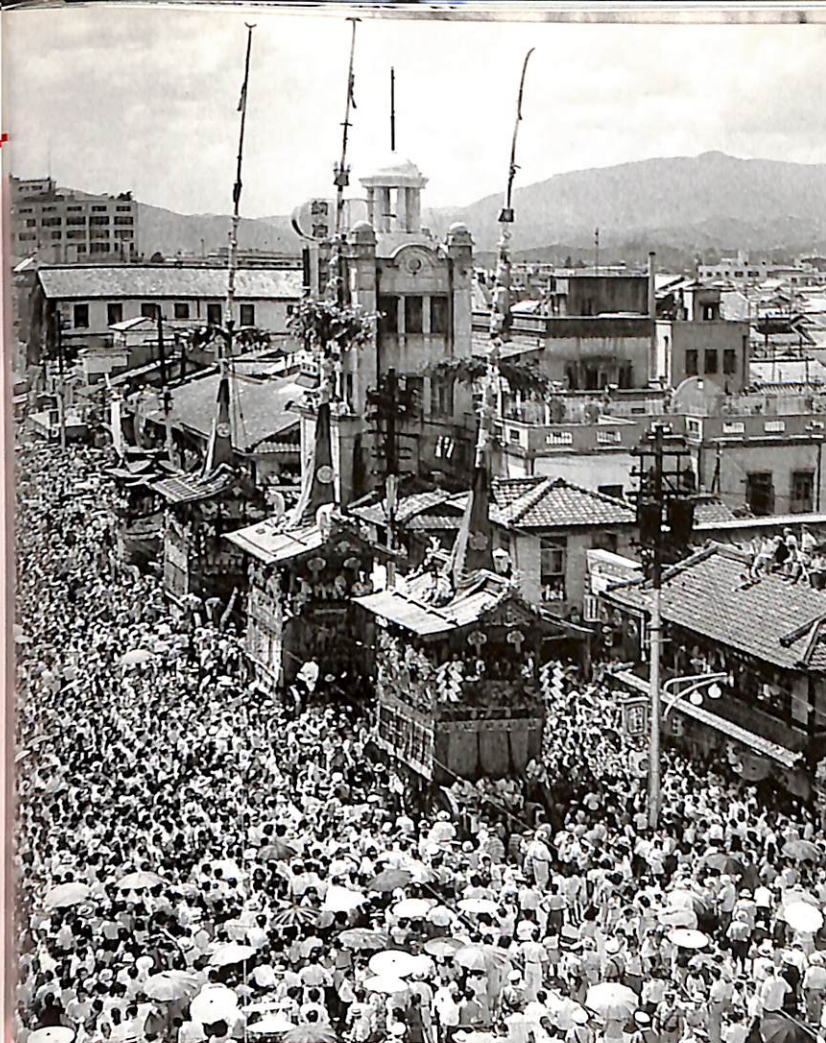
▲**祇園祭、再開（7月13日）**太平洋戦争で途絶後、7年ぶり。平安時代以来の歴史ある京都・八坂神社の祭礼で、往時の規模にはおよばなかったが、おなじみの山鉾が大にぎわいの市中をめぐった。

毎日新聞社

▲**政府手持ち米、山積み（7月21日）**朝鮮戦争による不安感で闇米が値上がり。政府はその抑制策として6大都市への20日分の米・小麦粉特配を発表した。写真は東京・深川の政府倉庫。政府保有の主食は約270万トンで、空前の貯蔵量だった。

原田政章

▲**宇和島で闘牛復活（7月24日）**動物虐待を理由に、GHQが昭和23年から禁止、この月解禁となったもの。空白のため若牛の育成ができずに再度中断され、本格的に再開したのは34年になってからだった。

読売新聞社

▲**後楽園球場での初ナイター（7月5日）**大映対毎日の試合が行われた。バッテリー間の平均照度は450ルクス。選手は「神宮球場より明るい」と評価したが、現在の東京ドームの5分の1程度の明るさだった。

▼**総評結成（7月11日）**正式名称は日本労働組合総評議会。反共・経済闘争主義・議会主義を掲げて発足、長く日本労働運動の中心勢力となった。写真は東京の東交会館で開かれた結成大会。

ROGER-VIOLLET／ユニフォト・プレス

◀**ベルギーのレオポルド3世、退位（7月31日）**第2次大戦でドイツに早々に降伏したことが、国民に嫌われた。ドイツで捕虜になっていたが国民の多くはその帰国にも反対した。写真は退位宣言に署名する同国王。

昭和25年7月

1（土）●味噌・醤油が自由販売に。コーヒー輸入再開。●明治製菓、国産初のストレプトマイシン発売。
2（日）●京都の金閣が全焼。徒弟・林養賢が放火。
3（月）●ベトナム人民軍、サイゴンの仏軍拠点占領。
4（火）●閣議、公共事業による一日六万人雇用など、日雇い失業対策を決定。
5（水）●後楽園球場での初ナイターが行われる。
6（木）●大山康晴、日本選手権に優勝し初の将棋九段。
7（金）●「ハス博士」大賀一郎、二〇〇〇年前の蓮の発芽に成功。
8（土）●マ元帥、国家警察予備隊の創設を指令。
9（日）●参院無所属議員一四人が「第一クラブ」結成。
10（月）●大映、ディズニーと映画輸入契約を締結。
11（火）●日本労働組合総評議会（総評）結成。●小倉市で脱走米兵二五〇人が強盗・暴行を繰り返す。MP二個中隊と市街戦（翌日鎮圧）。
12（水）●テニス・体操など九競技団体が国際連盟復帰。
13（木）●国警など、全学連の全国一斉捜索を実施。
14（金）●法務府、徳田球一ら共産党幹部九人を告発。
15（土）●酒税の大幅引き下げと密造酒取締りの陳情団が三五〇万人の署名を持って国会訪問。
16（日）●伊豆大島の三原山が一〇年ぶりに噴火。
17（月）●通産省、GHQが日本船舶の紅海以東の自由航行を認めたと発表。
18（火）●マ元帥、「アカハタ」の無期限発行停止を指令。
19（水）●日教組、教員再教育問題で天野文相と団交。
20（木）●通産省、家庭用石鹸の配給・統制を廃止。
21（金）●闇米価格上昇で戦後二度目の主食特配決定。●日本郵船の釧路—東京定期航路の開設許可。
22（土）●田中耕太郎最高裁長官、日本の国連義勇軍参加は法律上は可能と発言。
23（日）●法務府、共産党系機関紙六〇〇を無期限停止。
24（月）●東京地裁、帝銀事件の平沢貞通に死刑判決。●GHQ、新聞協会にレッドパージを勧告（28日、報道八社で三三六人を解雇）。
25（火）●朝鮮戦争の国連軍総司令部、東京に設置。
26（水）●宮内庁、天皇の北海道巡幸の中止を通達。
27（木）●広島県沖で、漁網にかかった機雷が爆発。死者・行方不明者四六人。
28（金）●GHQ軍事法廷、反米ビラ配付の在日朝鮮人に重労働五年・刑期満了後本国送還の判決。
29（土）●公務員の給料は民間より低いと人事院調査。
30（日）●柏崎市の花火工場で爆発事故。一〇人即死。
31（月）●都内の赤痢患者が戦後最悪の三六三二人に。

青木正美提供

証言・あの日この日
青木正美（16）

4月27日（木）〈又、例の欲望だ。千住で降り、歩いた。梅田金美館へ行った。四十円だと思ったら、五十円だ。身体中探して、四十九円しかなかった。そこは諦め、北千住から都電に乗った。大橋で下車し歩いた。自分ながら、気狂いのようだった。向島館へ入った。全部失敗だった〉（青木正美『青春さまよい日記』）

東京下町、堀切の自転車修理屋の8人兄弟の長男、青木正美少年は、向学心にあふれながら、家庭の事情で昼間家業を手伝った後、定時制高校に通う。将来のささやかな夢は古本屋だ。不安で窮屈な毎日を送る彼のわずかな楽しみが読書と映画館通いだった。しかも、ただ映画を見に行くだけではない。〈こういう場合、一人で来た女が、一番いたずらしよいらしい。女の方に身を寄せて行った。女は少し退いた……〉（4月30日）。（坪内祐三）

朝日新聞社

▲**力道山、引退（8月）**昭和21年入幕、24年関脇と破竹の昇進を続けてきたが、突然、みずから「まげ」を切って力士を廃業した。正式の引退表明は9月11日。翌年プロレスに転向し27年2月、アメリカへ武者修行に出る。

毎日新聞社

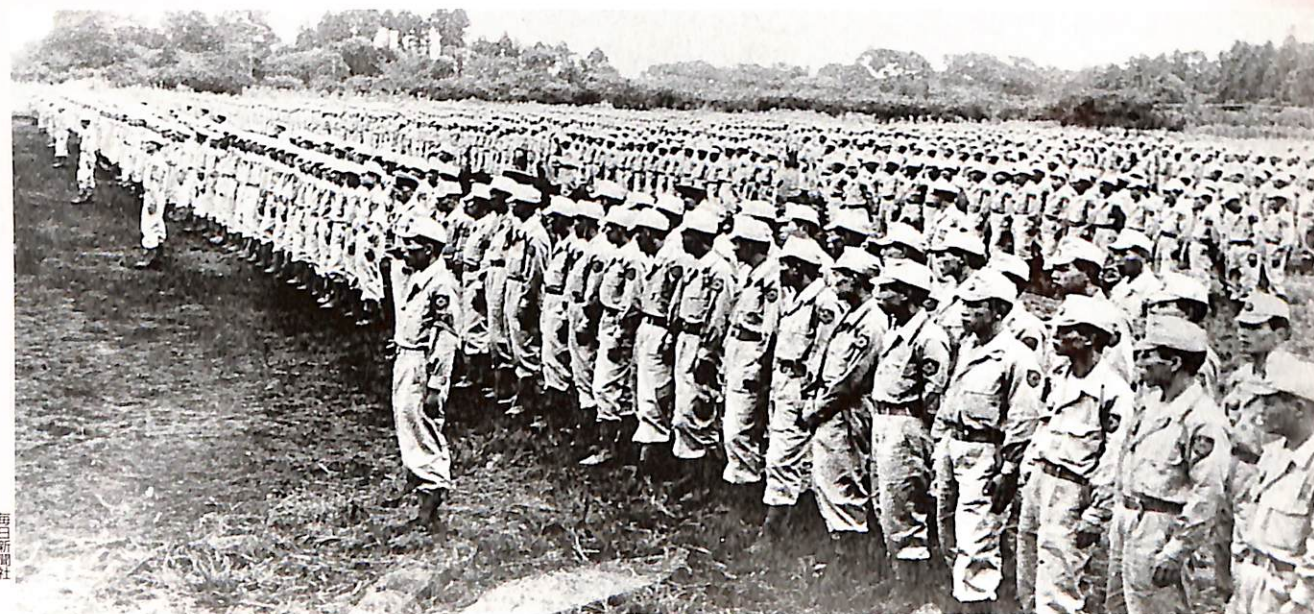
▲**湯川秀樹博士（43）帰国（8月10日）**昭和23年渡米、24年からコロンビア大学教授として滞米中にノーベル賞を受賞し、ようやく3週間の予定で帰国した。出迎えにこたえる博士。

◀**日米対抗水上競技大会（8月4日）**東京の神宮プールで開催された。古橋（写真）が200・400・800メートル自由形に世界新記録で優勝したが、総得点46対17で米チームが圧勝。

毎日新聞社

▶**警察予備隊発足（8月23日）**7月8日のマッカーサー指令後わずかに1ヵ月半、第1回の合格者約7000人が入隊した。写真は翌日行われた東京地区の入隊式。

WWP

▼**ローゼンバーグ夫妻、逮捕（8月）**原爆に関する機密をソ連にもらしたスパイ容疑。証拠は貧弱で夫妻は一貫して否認したが有罪となり、1953年処刑された。

昭和25年8月

1（火）●小田急、新宿—箱根直通のロマンスカー運行。●「味の素」が自由販売となる。
2（水）●米原子力委員会、デュポン社と水爆製造工場の建設契約を締結と発表。
3（木）●求職難打開のため、文部省と全国大学の代表が全国アルバイト対策協議会設置。
4（金）●GHQ、日本船のパナマ運河通行を許可。
5（土）●都教委が父母の学校寄付負担を全廃と新聞に。
6（日）●広島市で原爆投下五周年の平和式典。厳戒下に非合法大会も開かれる。
7（月）●豪雨で茨城県・小貝川の堤防決壊。四万人被災。
8（火）●韓国避難民を密航者扱いにと海上保安庁指令。
9（水）●レッドパージの被解雇者ら中心に、言論弾圧反対同盟を結成。
10（木）●警察予備隊令公布（23日、第一次入隊）。
11（金）●東京地裁、三鷹事件を竹内被告の単独犯行と断定しほかの九被告に無罪判決。検察は控訴。
12（土）●都内の日本脳炎患者が一〇五人（二五人死亡）となり前年同期の七・五倍。
13（日）●警察予備隊員の募集初日、三万人が殺到。
14（月）●文部省、八大都市の小学校で九月からガリオア資金によるパン完全給食を実施と発表。
15（火）●英エリザベス女王が女児（アン王女）を出産。
16（水）●日産、朝鮮特需で米軍よりトラック大量受注。
17（木）●西独首相、西独軍の即時創設を要求。
18（金）●韓国政府、大邱から撤退し釜山に移る。
19（土）●四日市市で東京—大阪—朝鮮間の直通国際電話ケーブルが切断され盗まれる。
20（日）●舞鶴市議補選で共産党候補が無投票当選。現職議員二六人が「赤色議員」嫌い総辞職。
21（月）●東京・谷中墓地の渋沢家の墓から、金製仏具など一〇〇万円相当が盗まれる。
22（火）●宝塚歌劇団、在籍のままの映画出演を認める。
23（水）●警視庁、横山泰三の漫画「噂の皇居前広場」を猥褻として掲載誌「ホープ」の押収を指令。
24（木）●電通省が新橋駅前で電話のかけ方を宣伝する「もしもしカーニバル」開催。
25（金）●GHQ、横浜に在日兵站司令部を設置と発表。
26（土）●黒澤明監督「羅生門」封切。
27（日）●周恩来、米軍機の中国領空侵犯に抗議。
28（月）●要保護児童は全国で七一万人と厚生省調査。
29（火）●IOC、日・独のヘルシンキ五輪参加を承認。
30（水）●笠信太郎『ものの見方について』刊行。
31（木）●GHQ、海外二七港への日本商船入港を許可。

▲東急の大下と白木を表彰（9月2日）100本塁打を記録した大下弘選手（左）と、74イニング3分の2無四球の世界記録を達成した白木儀一郎投手に、野球連盟と球団から記念トロフィーが贈られた。

▼伊豆大島の三原山大噴火（9月25日）この年7月16日、10年ぶりに噴火し、翌年6月9日まで数回にわたって大爆発を繰り返した。噴出した溶岩は御神火茶屋を焼き、砂漠地帯を埋めつくした。

毎日新聞社

毎日新聞社

▲ジェーン台風来襲（9月3日）被害は四国・中国・近畿・北陸・北海道におよび、死者・行方不明者508人、家屋の損害5万6131戸に達した。写真は倒壊した大阪の四天王寺金堂。

毎日新聞社

▶「朝日新聞」、記事全文取り消し（9月30日）潜伏中の共産党員、伊藤律の「単独会見記」を27日に掲載したが、記者の捏造と判明。

社告

伊藤律氏会見記取消し

九月二十七日付本紙三面所載、伊藤律氏との会見記は、その後本社で調査の結果、本社神戸支局員長岡記者のねつ造記事と判明しました。とくに全文を取消して陳謝いたします。

朝日新聞社

▼総武線で脱線事故（10月18日）小岩―新小岩間の貨物列車操車場で機関車が脱線、影響で電車も上下線が不通となった。軟弱地盤が原因で、この年3度目の脱線だった。

毎日新聞社

▼朝鮮戦争の国連軍へ慰問品（9月5日）東京商工会議所の呼びかけにこたえ、東京・銀座の泰明小学校の6年生40人が慰問品の人形作りに精を出した。同会議所は米赤十字社を通じ、これら児童が作った4500点の慰問品を米兵たちに送った。

▶「錦帯橋」流失（9月14日）九州・中国地方に、死者・行方不明者43人という被害をもたらしたキジア台風の影響。1673年の架橋以来、ほとんど事故がなかったが、3つの太鼓橋すべてが流された。

毎日新聞社

昭和25年9月

- 1（金）●閣議、公務員のレッドパージ方針を決定。
  ●セシル・オーブリ主演「情婦マノン」封切。
- 2（土）●厚生省、副作用の強い結核新薬「ティビオン」の販売禁止を通知。
- 3（日）●京阪神中心にジェーン台風。死者・行方不明者五〇八人、家屋五万六一三一戸に損害。
- 4（月）●沖縄から戦後初の「泡盛」の輸入決定。
- 5（火）●東京都競馬、ゴールの写真判定装置を設置。
- 6（水）●電通省、日―豪間国際電話を一〇日から開通と発表。料金は三分間五四〇〇円。
- 7（木）●国税局、新興宗教・霊友会を脱税容疑で査察。
- 8（金）●V・デ＝シーカ監督「自転車泥棒」封切。
- 9（土）●兵庫県の鳴尾競輪で観衆が騒ぎ、一五〇人を騒擾罪容疑で逮捕。警察官の発砲で一人死亡。
- 10（日）●後楽園で初のノンプロ野球世界選手権開催。
- 11（月）●関脇力道山、引退を発表（翌年プロレス転向）。
- 12（火）●米大統領、新国防長官にマーシャルを任命。
- 13（水）●GHQ、体育への柔道復活を許可。
- 14（木）●岩国市の錦帯橋、増水で三つの太鼓橋が流失。
- 15（金）●国連軍、仁川に上陸しソウルへの反攻開始。
  ●通産省、全国の競輪を二ヵ月間中止と決定。
- 16（土）●通産省、カナダ国際見本市への日本参加決定。
- 17（日）●沖縄の群島知事選で平良辰雄が当選。
- 18（月）●警察予備隊中堅幹部の募集締め切り。八〇〇人の募集に一万六六六七人が応募。
- 19（火）●国連総会、中国代表出席の動議を否決。
- 20（水）●衣料切符を全面廃止、一〇年ぶり自由販売に。
  ●GHQ、米兵と日本女性との結婚禁止令解除。
- 21（木）●松竹、六六人の解雇通告（映画界のレッドパージ始まる。翌日、大映と東宝も）。
  ●シャウプ使節団、第二次税制勧告を発表。
- 22（金）●日大職員・山際啓之、輸送中の同大職員給料を強奪（24日逮捕。日大ギャング事件）。
- 23（土）●浅間山が大爆発。東京・埼玉などに降灰。
- 24（日）●伊、一五〇〇億リラの再軍備三年計画を決定。
- 25（月）●読売新聞社、週刊の「読売新聞学校版」を創刊。
- 26（火）●国連軍、ソウルを占拠。北朝鮮軍、北へ撤退。
- 27（水）●「朝日新聞」、潜行中の共産党中央委員・伊藤律との会見記を掲載（30日、捏造と判明し謝罪）。
  ●厚生省、五〜一〇年で結核患者を半減する計画を発表。予防接種の義務制など。
- 28（木）●日赤、国連軍傷病兵への輸血奉仕運動を開始。
- 29（金）●全逓信従組の分割で全逓と全電通発足と決定。
- 30（土）●小田原動物園開園（11月1日浜松市動物園）。

▲元日本共産党中央委員・春日正一逮捕（10月7日）法務府の出頭要請を拒否した容疑で指名手配されていたもの。弾圧が強まる中、公職追放後、地下活動中だった。中央、帽子が春日正一。

毎日新聞社

共同通信社

▲伊豆大島に日本初の風力発電（10月）三原開拓農協が設置。24ボルト・230アンペアのバッテリー4個に、平均3日分を蓄電するシステムで、30戸の農家の電灯とラジオに電力を供給した。

毎日新聞社

▲第6回国勢調査（10月1日）日本の人口は8319万9627人と判明、10年前より約1000万人の増加が確認された。居住状態や教育程度が調査項目に新たに加えられた。

▶ボブ・ホープ来日（10月14日）朝鮮半島の国連軍将兵を慰問する途中に立ち寄ったもの。東京・両国のメモリアル・ホールでショーを行った後、料亭で日本の一夜を楽しんだ。

◀胃カメラ開発（10月28日）東大病院分院外科の宇治達郎（中央）が、オリンパス光学工業の協力で世界で初めて完成。この経緯は、吉村昭の小説『光る壁画』に描かれている。

共同通信社

毎日新聞社

昭和25年10月

- 1（日）●第六回国勢調査（人口八三一九万九六二七人）。
  ●韓国軍、三八度線を突破。
  ●母子の往復書簡集、波多野勤子『少年期』刊行。
- 2（月）●大阪警視庁、「利息一六割」とだまし集めた四〇〇〇万円詐取の二人を逮捕。
- 3（火）●警視庁、「夜の女」一斉摘発で四〇〇〇人検挙。
- 4（水）●GHQ、日本の外航船に旅客輸送を許可。
- 5（木）●UP通信社、米の対日講和七原則を報道。
- 6（金）●国連軍、過去三日間で北朝鮮軍捕虜一万四〇二八人と発表（8日、総計五万人と発表）。
- 7（土）●元日本共産党中央委員・春日正一、逮捕。
- 8（日）●鳥取大学で火災。三一六〇坪が焼失。
- 9（月）●労働省、民間企業のレッドパージは主導者中心に小規模にと各知事に通達。
- 10（火）●東北銀行に設立免許（以後地銀新設が増加）。
- 11（水）●最高裁、尊属殺重罰は違憲ではないと判示。
- 12（木）●農林省、前月廃止した競馬の連勝式馬券を、収入減を理由に復活。
- 13（金）●政府、一万九〇人の公職追放解除を発表。
- 14（土）●米喜劇俳優ボブ・ホープが米軍慰問で来日。
- 15（日）●白木屋（現・東急日本橋店）、外国人専用の国産品売り場「エクスポート・バザー」を開設。
- 16（月）●都内八ヵ所で「成人学校」が開講。
- 17（火）●文部省、学校行事に日の丸・「君が代」を復活との天野貞祐文相談話を通達。
- 18（水）●GHQ、商社の在外支店開設制限を解除。
- 19（木）●ぶどうの会、木下順二作・山本安英主演「夕鶴」を上演（三越劇場）。
- 20（金）●国連軍、平壌を占領。
- 21（土）●仏、北部インドシナの重要基地ランソン放棄。
- 22（日）●泉佐野市でちりめんじゃこによる集団食中毒。一六人死亡、百数十人が重体。
- 23（月）●私鉄三六社、五一六人をレッドパージ。
- 24（火）●ボクシングのピストン堀口、過失により轢死。
- 25（水）●朝鮮戦争に中国参戦。人民義勇軍が鴨緑江を渡河（11月2日、国連軍、清川江南岸に撤退）。
- 26（木）●海上保安庁、米海兵隊上陸の掃海作戦に従事。
- 27（金）●中国、チベットに進駐（11月、親共政権樹立）。
- 28（土）●早大、反レッドパージ本部占拠闘争の中心学生八六人を退学処分。
- 29（日）●朝鮮戦争の特需が累計で一億三〇〇〇万ドル。
- 30（月）●「夜の女」の強制同行・検診は人権侵害で違憲と、法制意見局が厚生省に通達。
- 31（火）●沖縄社会大衆党結成。委員長・平良辰雄。

▲ジョー・ディマジオ来日(11月3日)サンフランシスコ・シールズのオドゥール監督(右)と来日。フリーバッティングだけだったが、後楽園球場は満員になった。

毎日新聞社

共同通信社

▲公務員のレッドパージ始まる(11月2日) 9月1日の閣議で、共産党員・同調者の追放が決定。この日、農林省では207人に解雇が通知され、翌年1月までに中央官庁だけで1177人が整理された。

▼京都駅全焼(11月18日)構内の食堂から出火。駅舎は大正3年8月15日、大正天皇の御大典を記念して建てられた、鉄道建築の粋を集めたルネッサンス式木造建築だった。

読売新聞社

▼初の寄生虫病予防週間(11月15日)厚生省の主導で、寄生虫病予防協会などが検診や薬の配付を行った。写真は街頭の無料診察所で標本をのぞきこむ人々。

共同通信社

▲元外相、重光葵出所(11月21日) 7年の禁固刑で巣鴨拘置所に服役していたが、刑期4年半を経過したこの日、A級戦犯としては初めて仮出所が許された。写真は拘置所所長デービス中佐と握手する重光。

▶神戸で在日朝鮮人と警官隊が乱闘(11月27日)在日朝鮮人への生活保護法の適用を求める11月24日のデモの逮捕者釈放を要求し、約1000人が長田区役所にデモ行進中、警官隊と衝突、192人が逮捕された。

朝日新聞社

昭和25年11月

1(水)●森永乳業、強化ビタミン入りドライミルクの製造を開始。
2(木)●第五回芸術祭開催。各地の郷土芸能が初参加。
3(金)●オリンパス光学工業と東大病院が、胃カメラを共同開発と学会で発表。
4(土)●沖縄・宮古・八重山各群島政府が発足(25日、奄美も。27年4月1日、琉球中央政府に統合)。
5(日)●第一〇〇回早慶戦が行われ、七万人が観戦。
6(月)●アナタハン島の残留生存者二十余人の氏名が、生還した比嘉和子の手紙で判明する。
7(火)●天野文相、修身科復活が必要と言明。
8(水)●重光葵がA級戦犯で初の仮出所とGHQ発表。
9(木)●世界連邦東京大会、開催(議長・松岡駒吉)。
10(金)●NHK、テレビの定期実験放送を開始。
11(土)●倉敷レイヨン、ビニロンの量産を開始。
12(日)●奈良の法隆寺、法相宗を離脱し聖徳宗を開宗。
13(月)●国鉄でレッドパージ開始。四七〇人に通告。
14(火)●ホー・チ・ミン軍徴用の元日本兵ら七人送還。
15(水)●最高裁、労組による生産管理は違法と判決。
16(木)●松食い虫被害が全国で一一三万町歩に達する(岡山など四県に初の強制防除命令)。
17(金)●新潟県の天然ガス埋蔵量は推定三〇〇億立方㍍と通産省地質調査所発表。
18(土)●京都駅全焼。構内の食堂から出火。
19(日)●広島で日本初の公式女子ボクシング試合。
20(月)●全東京街頭紙芝居コンクール予選大会開催。
21(火)●大蔵省でこども銀行支店長の表彰式。預金総額一六億八〇〇〇万円。
22(水)●プロ野球の第一回日本選手権(日本シリーズ)開幕(パの毎日がセの松竹に四勝二敗)。
23(木)●日紡貝塚工場で女子工員二人のレッドパージに抗議し、三〇人が事務所を占拠し放火。
24(金)●経済安定本部、一〇月の鉱工業生産指数は戦前の生産水準を突破したと発表。
25(土)●大岡昇平『武蔵野夫人』刊行。
●木暮実千代・佐分利信主演「帰郷」封切。
26(日)●北朝鮮軍・中国軍、総反撃を開始。
27(月)●神戸市で検挙された朝鮮人釈放求め一〇〇〇人がデモ、一五〇〇人の警官隊と衝突。
28(火)●GHQ、大阪商船に南米定期航路開設を許可。
29(水)●全国未亡人団体協議会結成(会長・湧井まつ)。母子年金制度、母子福祉施設拡充などめざす。
30(木)●トルーマン米大統領、朝鮮に原爆投下を考慮と言明(12月4日、英首相が反対を表明)。

◀ヴァイニング夫人(48)、日本とお別れ(12月1日)昭和21年から皇太子(16)の英語教師をつとめてきたが、米国への帰国が決まり、この日、乗船に皇太子、義宮(現・常陸宮)を招いてお別れのパーティーを開いた。

共同通信社

▲パーマ流行でかつら店大繁盛(12月)資生堂の美容講座が開設され、アイメークが登場するなど、女性のお洒落が本格化したこの年、かつら店の店頭には、正月用の日本髪のかつらを求める女性が目についた。

毎日新聞社

◀日通ストで貨物輸送ストップ(12月18日)賃金ベースの引き上げと年末手当を要求し、全日通が11月23日から安全闘争。各貨物駅では荷さばきが渋滞、滞貨の山が出現し、国鉄はこの日、発送制限に入った。写真は大阪・梅田貨物駅。

共同通信社

▼「三太のクリスマス」にファン殺到(12月24日)NHKの人気ラジオドラマ「三太物語」のクリスマス大会が東京の日比谷公会堂で開かれ、主演の声優・金田明君が舞台に初登場。「三太物語」は昭和36年からテレビドラマとして再登場した。

毎日新聞社

毎日新聞社

▲一般からも指紋採取(12月)偽名による犯罪への対応や、被害者特定の迅速化が目的。米穀通帳に任意で指紋を押してもらうもので、都内の警察署は下旬から作業を本格化させた。写真は27日、銀座のキャバレーで。

昭和25年12月

1(金)●酒税引き下げにより、酒類大幅値下げ。清酒特級一升一一七五円が九五〇円に。
2(土)●桐生ゴムの労組婦人部員二人、同僚の解雇に抗議し三〇㍍の煙突上に籠城(~6日)。
3(日)●韓国国防長官、国連に対し原爆の使用を要請。
4(月)●東大評議会、「わだつみ像」の学内設置を拒否。
5(火)●青森県、豊作による値崩れのため「りんご列車」で全国キャンペーンを開始。
●沖縄米軍政府を米民政府に改組(初代長官にマッカーサー元帥就任)。
6(水)●福島地裁、松川事件で五人死刑など全員有罪。
7(木)●池田蔵相、参院で「貧乏人は麦を食え」発言。
8(金)●特許局、「街の発明家」に補助金交付と発表。
9(土)●京都で不許可の全官公越年総決起大会決行。
10(日)●警視庁、男女警官アベック・パトロール実施。
11(月)●外務省、ソ連での未帰還者は三七万人と発表。
12(火)●福島県沼沢村の発電所工事現場でケーブルカー墜落。一五人死亡、六人重傷。
13(水)●地方公務員法公布。争議行為を禁止。
14(木)●国連総会、朝鮮停戦三人委員会設置を決定。
15(金)●東京土建一般の労組員一〇〇〇人が、越年資金を要求し都庁で投石、警官四〇〇人出動。
16(土)●米大統領、国家非常事態宣言を発令。
17(日)●静岡県で突風のため家屋倒壊し一二人死傷。
18(月)●NATO理事会開催(NATO軍六〇個師団創設、西独軍のNATO軍編入などを決定)。
19(火)●警視庁、被害者特定・犯人検挙の迅速化のため全国民対象の「指紋採取要項」を通達。
20(水)●軍作戦関連の報道を事前検閲と総司令部発表。
21(木)●学生アルバイトにも特需景気と学徒援護会。
22(金)●宇野重吉・滝沢修ら劇団民芸が、再建旗揚げ公演としてチェホフの「かもめ」を上演。
23(土)●米第八軍司令官ウォーカー、朝鮮で事故死。
24(日)●国連軍、中国軍が三八度線を突破と発表。
25(月)●岩波少年文庫、刊行開始。
26(火)●警視庁、踏切事故増加対策で、バスの車掌が下車して通過を誘導する方式を決定。
27(水)●「毎日新聞」が人気スター投票結果を発表。上位は高峰秀子、G・クーパー、I・バーグマン。
28(木)●日本輸出銀行、設立。
29(金)●J・フォード監督「わが谷は緑なりき」封切。
30(土)●都内デパートの歳末売り上げが四五億円で前年比五〇㌫増、と新聞に。
31(日)●警視庁、日中友好協会本部を強制捜索。

俄楽多市

流行語
政治家の本音丸出し

「貧乏人は麦を食え」。参議院法務委員会で、池田勇人蔵相が言った言葉。正確には「所得の多いものは米本位、少ないものは麦本位で」というものだった。これが「金持ちは米の飯を食うから貧乏人は麦を食え」という政治家の本音を表す発言として物議を醸した。

「いかれポンチ」。もともとは関西弁で「だめな坊っちゃん」という意味だが、この年獅子文六の小説『自由学校』で使われてから全国に広まった。獅子文六は当時、作家随一の流行語メーカーといわれ、「とんでもハップン」、「てんやわんや」など数々の流行語を生み出した。

「アメション」。アメリカまで出かけて、小便だけして帰ってくるような短期間の渡航を皮肉って言った言葉。

「チラリズム」。この年七月、女剣劇の浅香光代が浅草に進出した。浅草はストリップの全盛時代、まともなことをやっては勝てない。そこで「エロにはエロ、ストリップが舶来のエロなら、こちらは日本流、着物の裾が割れて太腿がチラリ」でいこうと考えた。これが「チラリズム」と呼ばれ、大ヒットした。

CM100年

▼7月12日付新聞広告。醤油の統制販売が廃止され、自由販売に復帰。

天下一品
いよいよ自由販売！
一滴にも傳統の色・味・香り
キッコーマン醤油
野田醤油株式会社

新聞CM「いよいよ自由販売！――キッコーマン醤油」（野田醤油・キッコーマン）

衣
戦車用クッションがマットレスに

日本人の日常は畳の部屋で生活し、その部屋にふとんを敷いて寝ることが基本である。ただしふとんに寝ること、特に綿の入った敷きぶとんに寝る形が定着したのは意外に新しく幕末から明治以降である。その結果、寝心地は格段によくなったが別の問題も生じた。綿は吸湿性が強く、縮むことである。その点に着目したのがブリヂストンタイヤ（現・ブリヂストン）で、同社は昭和一七年、水も吸わず、縮む心配も無用の戦車用クッションのためのマットレスを開発した。その特徴を生かして昭和二五年九月、ゴムの統制が撤廃されると同時にふとん型マットレスの製造に着手した。このマットレス「エバーソフト」が発売されたのは翌二六年。これがきっかけで、日本にもマットレス時代が到来する。

（渋谷敬治『ねむりと寝具の歴史』）

スター
日本での人気スタートップは高峰秀子

ハリウッドで開かれる「第一回世界の人気スター」の日本の集計がまとまった。それによると①高峰秀子、②ゲーリー・クーパー、③イングリッド・バーグマン、④原節子、⑤木暮実千代の順だった。

（「毎日新聞」一二月二七日）

明治製菓

▶七月、明治製菓が「ストレプトマイシン明治」を発売、結核の特効薬としてもてはやされた。

文化
廃刊、発禁続出！出版受難の一年

この年は出版にとって受難の年だった。まず一月から六月の半年間に廃刊した雑誌が五六一誌と空前の数字を記録した。さらに猥褻物頒布等で摘発されたものが前年五月からこの年四月までで九三三件、その約半数の四三三件が一月以降に集中していた。『チャタレイ夫人の恋人』が摘発されるのは六月で、ここには含まれていない。このほか「不問」というのが五〇件あった。これは摘発したがGHQ（連合国総司令部）の圧力などで不問に付したというもので、その中にノーマン・メイラーの『裸者と死者』もあった。

（松風書院『戦後世相・流行史』）

ジャングル大帝
JUNGLE EMPEROR
手塚治虫著

▲「漫画少年」11月号から連載が始まった手塚治虫作「ジャングル大帝」。上品でモダンな絵が読者の人気を集めた。 ©手塚プロダクション

データ
半年で六万四五三四匹 東京のねずみ退治

昭和二四年一〇月から二五年三月にかけ、全都一斉にねずみ退治が行われた。その成果は――

ねずみ取り器の配置数 四二万三七〇〇。

器械にかかったねずみ数 五万三六八四匹。

毒餌の配置数 八五万四九五個。

ねずみが食べた毒餌数 一八万六六二五個。

死体発見数 一万八五〇匹。

退治したねずみの総計 六万四五三四匹。

（『東京都衛生年報・昭和二五年版』）

▲郵政省が増収をはかるため、この年、郵便ポストの頭部を広告塔とした。

共同通信社

三面記事
有名俳優がキスのお勉強

キスの勉強は戦後映画界の緊急課題であるらしい。山口淑子はそのためにはるばるアメリカまで出かけたが、東京・目黒の雅叙園では八月一九日、公開のキス講習会が開かれた。講師はロケで来日中のハリウッド女優フローレンス・マリー嬢で、日本側生徒代表は松竹の安部徹と高橋貞二。講習の中身だが「これは好きあった同士のディープキス」とマリー嬢が前置きして行った訓練は、かたわらで見学していた大谷伶子、藤田泰子などのスター連のくすぐったそうな表情が次第にため息に変わるほどの濃厚さ。

ところで日米接吻第一号をモノにした二人の感想は、安部徹「あまりのことに、ただ気がふらふら」、高橋貞二「キスがおいしいものであることを発見しました」というものだった。

（「毎日新聞」八月一九日）

友人の身代わりに無期懲役

（広島発）強盗暴行殺人罪で一審で無期刑を宣告され服役中の男が、実は身代わりだったという事件が広島で起こった。昭和二四年三月二四日、広島県安佐郡（現・広島市）の雑貨商宅に三人組の強盗が押し入り、現金三万円と衣類一二〇点を奪ったうえ、三女のA子ちゃん（三）を殺害した事件の犯人として、広島地裁は六月三〇日、広島市の露店商B（二二）に対し無期懲役を言い渡した。ところがあまりの刑の重さにびっくりしたBが「自分は身代わりで、真犯人は住所不定のC（二三）だ」と訴えたため、Cの行方を追及したところ、窃盗罪で懲役一年の刑を受け岩国刑務所に服役中であることがわかった。そこで広島地裁でCを取り調べていたが、この日「自分が真犯人でBは身代わり」と自供。係官はびっくり、裁判を中止し捜査のやり直しを命じた。

（「中国新聞」七月二二日）

はやり歌

水色のワルツ

君に逢ううれしさの
胸にふかく
水色のハンカチを
ひそめる習慣が
いつの間にか
身にしみたのよ
涙のあとをそっと
隠したいのよ

月影の細路を
歩きながら
水色のハンカチに
包んだささやきが
いつの間にか
夜露にぬれて
心の窓をとじて
忍び泣くのよ

作詞 藤浦洸
作曲 高木東六

福田俊二提供

水色のワルツ

▶明るい中にも哀愁をたたえた歌で、二葉あき子が歌って大ヒットした。後に上原謙らの出演で、映画化もされた。

夜来香

あわれ春風に
嘆くうぐいすよ
月に切なくも　匂う夜来香
この香りよ
長き夜の泪　唄ううぐいすよ
恋の夢消えて　残る夜来香
この夜来香
夜来香　白い花
夜来香　恋の花
ああ胸痛く　唄かなし

訳詞 佐伯孝夫
作曲 黎錦光

あわれ春風に
嘆くうぐいすよ
つきぬ想い出の　花は夜来香
恋の夜来香
あわれ春風に
嘆くうぐいすよ
つきぬ想い出の　花は夜来香
恋の夜来香
夜来香　夜来香　夜来香

山口淑子提供

◀戦時中、李香蘭の芸名でこの歌を歌っていた山口淑子が本名にもどって歌い、大流行した。

野口英世をまつる野口神社創建

（福島発）野口英世博士の人類愛をたたえ、同博士を祭神とする科学の神様「野口神社」創建計画が許可された。これは敗戦後、初めて許可された神社である。同神社は博士の生地、福島県翁島村（現・猪苗代町）の産土神、「八幡神社」のほとりに仮殿建設が進められており、五月には完成して鎮座祭がいとなまれる予定である。

（「毎日新聞」三月一一日）

共同通信社

▶愛知県一宮で月六回、三と八の日に開かれた露店での生地のはかり売り風景。

▲一一月一日から、東京・日比谷公園で戦後初の東京都観光菊花大会が開かれた。写真は出品審査風景。

共同通信社

セックス
遊廓の座興からSMがスタート

今、人気絶頂のSMショーのルーツは昭和二五年、大阪・飛田遊廓で始まった"縛られ女郎ショー"である。立案者は須磨利之。ある楼主から「パーッと人が飛びつくアイディアはないか」と持ちかけられ、座興として始めた。これが大評判、三日目には口コミで聞いた人が広島や和歌山からもやって来た。須磨は翌年、日本初のSM雑誌「奇譚倶楽部」を創刊する。

（「スパーク」昭和六一年六月号）

この年の初もの
大阪でアルサロの「ユメノクニ」開店

●スクリュードライバー　朝鮮戦争に従軍する米兵が、日本女性を口説くために発明したカクテル。

●モンタージュ写真　警視庁の前田正雄技師が考案。

●ナイロンストッキング　郡是製糸（現・グンゼ）から発売。一足八〇〇円と絹より高かったが爆発的人気を呼んだ。

大人や国家なんて信じない！「日大ギャング事件」「光クラブ」頻発する“アプレゲール犯罪”と若者たち

昭和二五年、若者たちによる特異な事件が次々と発生した。そこには、終戦後の世情を映すかのように、戦前には見られない傾向があった。「大人なんか信用できない！」――日大ギャング事件の山際啓之も、光クラブの山崎晃嗣も、自分だけの価値観を追い求めての犯行だった。

“二世もどき”の服装で「オー・ミステイク！」

「ヘーイ・ストップ！」――日本大学の運転手だった山際啓之（一九）が、千代田銀行の小川町支店から日本大学職員の給与を運ぶ途中のダットサンを呼びとめたのは、昭和二五年九月二二日のことだった。同僚の山際を見つけて停車した運転手をナイフで脅して、一九一万円入りのバッグと車を奪った。

山際は、二日後の二四日午後四時、間借りしていた東京・品川区の会社員宅で恋人の藤本佐文（一八）と一緒にいるところを逮捕されたが、日本大学教授・藤本藤次郎の娘である彼女との駆け落ち資金を作るための犯行だった。ミルキーハットにコールテンの上着、ギャバジンのズボンと、警察官の初任給が三四五〇円の時代に総額一〇万円のファッションに身をかためていたのもさることながら、逮捕時の人を喰ったような文句がふるっていた。

「オー・ミステイク！」――アメリカのギャングをまねて肩をすほめ、手を広げてみせたのである。実際、腕には“ジョージ”という名の刺青、チャンポン英語を話す山際を、下宿先では本物の日系二世だと信じこんでいた。

この「日大ギャング事件」は、この年四月一九日に出納係の立場を利用して、鉱工品貿易公団から八〇〇〇万円を着服した早船恵吉（二五）の事件とともに、「アプレゲールの犯罪」と騒がれることになる。

「戦後」を意味する「アプレゲール」という言葉は本来、第一次世界大戦後に社会の価値体系が崩れ、それに代わる価値観が確立されずに混乱したフランスで生まれた言葉だった。日本では敗戦後の文学思潮を表す用語として使われ、二五年頃になると戦前には考えられなかった行動や思考をする若者を意味する流行語と化す。あたかも昭和六〇年頃にはやった“新人類”のように、大人たちは「最近の“アプレゲール”のやることといったら……」と若者を嘲笑したものだった。

手記「高利貸の述懐」中に展開した光クラブの論理

「日大ギャング事件」の一年ほど前、経済事件の主役として注目をあびたもう一人の青年がいる。闇金融で一世を風靡した「光クラブ」の学生社長・山崎晃嗣だ。学徒動員の生き残り組で、当時二六歳。東大法学部三年生だった山崎は、一歳年下の日本医大生・三木仙也と二三年九月に「光クラブ」を設立。

「確実と近代性を誇る日本ただひとつの金融株式会社　光クラブ」と新聞に広告を打っては、月一割三分の高配当で投資金を募った。その金を中小企業に月二割一分～三割の高利で貸し付けるというふれこみだった。闇成金や小金持ちの未亡人がこぞって投資する人気ぶりで、二四年一月には銀座に進出。月商は五〇〇〇万円にも達した。

とはいえ、法定金利が月九分の時代に一割三分の配当金を支払う水ぶくれ経営が続くわけがない。七月四日、山崎は物価統制令と銀行法違反容疑で京橋署に検挙される。すぐに釈放されたが、マスコミの注目を集めただけに動揺した債権者から約三〇〇〇万円の取り立てを迫られ、彼は一一月二四日に社長室で服毒自殺をとげる。部屋には、遺書と「高利貸の述懐」と題した手記が残されていた。

▲東京・銀座の「光クラブ」社長室。山崎晃嗣は昭和24年11月24日、自分の写真を前に、青酸カリをあおった。

▶9月22日、日大職員の給料190万円を強奪し逃走、2日後に逮捕された山際啓之と藤本左文。東京・大森署で。 朝日新聞社

外から見たNIPPON

マッカーサー元帥「年頭の辞」が示唆した日本の〝再軍備〟

佐伯　修

▲対日占領連合国最高司令官として日本進駐。

「日本国民諸君

終戦後五度目の新年を迎えた今日、まぎれもなく一つの際立った事実が認められる、日本は技術的には今なお交戦状態にあるとはいえ今日日本よりも平和な国はこの地球上に全く数えるほどしかないという事実である」（「朝日新聞」一月一日付）

この年の元旦、マッカーサー元帥は、恒例の日本国民に対する「年頭の辞」を右のような呼びかけで始めている。

彼はまず、この一年間で、日本の統治権を「諸君の選んだ代表者」たちの手に委ねる素地が一段と整ったことを告げているが、これは、吉田茂首相らの反共・親米路線に立つ保守政権が順調に力を得つつあることへの満足表明である。

そして、後半で、彼は「日本はただ憲法に明示された途を迷わず、揺がず、ひたすら前進すればよい」とし、その憲法そのものについては、「この憲法の規定は日本人がみずから考え出したものであり、もっとも高い道義的理想にもとづいているばかりでなく、これほど根本的に健全で実行可能な憲法の規定はいまだかつてどこの国にもなかったのである」と、その自主性と理想の高さを強調したうえで、すぐ、次のように続けている。

「この憲法の規定はたとえどのような理屈をならべようとも、相手側から仕掛けてきた攻撃にたいする自己防衛の冒しがたい権利を全然否定したものとは絶対に解釈できない」

約半年後の七月八日、元帥は、吉田首相に書簡を送り、国家警察予備隊、つまり後の自衛隊の設立などを指示する。右の「年頭の辞」は、日本の実質的な支配者による、再軍備宣言であり、「日本国憲法」を含む、占領政策と〝民主改革〟の転機を意味するものだったとみなしうる。

なお、ダグラス・マッカーサー（一八八〇〜一九六四）の日本に関する発言としては、合衆国極東軍最高司令官を解任され、退役・帰国後の「日本人一二歳説」が波紋を呼んだ。これは、一九五一年五月五日、米上院軍事・外交合同委員会公聴会で、ドイツにおける占領政策と、日本でのそれの違いを述べた中での発言。彼は、ドイツ人は、アングロ・サクソン族である「われわれ」と「科学、芸術、神学、文化」の点で「同じくらい成熟」しているとし、それに対し、日本人は「われわれが四五歳であるのに対して、一二歳の少年のようなものでしょう」と評したのだった。

▲東京・丸の内の光クラブ広告塔。山崎の「行動的合理主義」も最後には破綻。

毎日新聞社

「私の合理主義からは、契約は完全履行を強制されていると解すべきだ。（中略）契約は人間と人間との間を拘束するもので、死人という物体には適用されぬ。私は事情変更の原則を適用するために死ぬ。私は物体にかえることによって、理論的統一をまっとうする」——。

これらの事件について、評論家の赤塚行雄氏は、

「山際と山崎の二人は『無責任で演技的、罪悪感のかけらもない』と言われましたが、〝一億総懺悔〟という言葉で戦争責任をウヤムヤにした国家が最も無責任だったんです。アプレ犯罪は、思想や価値観の断絶の中で必然的に生まれた悲喜劇なんじゃないでしょうか。〝大人や国家なんて信じない。自分流にドライに生きてやる〟と、新しい価値観を探して失敗したという点で山際と山崎は同じだった。二人は混乱した時代の犠牲になった、最も〝アプレ的なアンチヒーロー〟と言えるかもしれませんね。ただ、同じ〝アプレ世代〟の犯罪でも、二つの事件は、若者が犯人に共感したことをのぞけば本質的には違う」

と解説する。

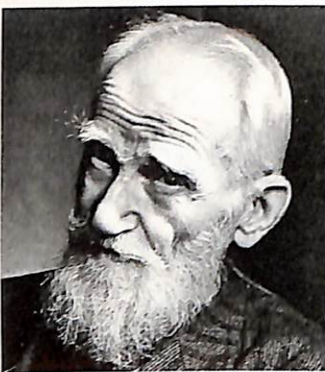
「つまり、妙なチャンポン英語を話し、流行の服を着て、雲の上のインテリだった教授の娘を恋人に持つ山際が犯した『日大ギャング事件』は、当時の風俗と密接に結びついた犯行でした。それに対し、『光クラブ』の背後にあったのは色濃い戦争の影です」（赤塚氏）

〝若槻礼次郎以来の秀才〟と噂された山崎が闇金融に身を投じたのには、軍隊でのある体験があった。陸軍主計少尉で終戦を迎えた彼は、上官命令で食糧を隠匿し、上官をかばい、懲役一年六ヵ月、執行猶予三年の判決を受ける。しかし、釈放された時、約束に反して隠匿物資はとうに上官らが山分けしていた。冷酷な仕打ちを受けて「人間の性は本来、傲慢、卑劣、邪悪、矛盾である」と考えた山崎は、徹底的な合理主義、契約主義で人生を割り切るようになっていった。

「上官に裏切られて契約主義、合理主義でみずからを武装せざるをえなかった山崎の心情を、同世代の若者はよく理解できたんです。彼をモデルにした小説『青の時代』を書いた三島由紀夫もその一人でしょう」と赤塚氏は言う。

昭和二〇年代なかばは、終戦の混乱こそ収束されていたものの、従来の思想や価値観が断絶していたうえに、麻薬に売春、新興宗教、経済事件と戦後日本の病理が総登場し、誰もが自分で生きる方法を見つけなければならない時代だった。

往きて還らぬ

▲10月9日　池田成彬（83）
〝三井の大番頭〟で、昭和11年定年制を設けみずからも辞任。12年日銀総裁、13年には近衛内閣の蔵相兼商工相。

▲11月2日　バーナード・ショー（94）
辛辣な皮肉をまじえた戯曲で知られるイギリスの劇作家。1925年ノーベル文学賞受賞。作品『ピグマリオン』など。

▲11月3日　小磯国昭（70）
陸軍大将。朝鮮総督などを歴任し、昭和19年首相に就任。戦後A級戦犯として終身刑を受けたが、服役中に病死。

▲12月11日　長岡半太郎（85）
物理学者。明治36年「土星型原子模型理論」で世界的に知られた。帝国学士院長など歴任。昭和12年文化勲章受章。

▲6月10日　出羽ヶ嶽文治郎（47）
元関脇。身長2メートル、体重200キロの巨体で、〝文ちゃん〟と親しまれた。昭和14年病気で引退。

▲6月24日　松方幸次郎（84）
実業家で川崎造船所・神戸瓦斯社長などを歴任。美術品収集家でもあり、「松方コレクション」として著名。

▲9月22日　藤原咲平（65）
元中央気象台長。「お天気博士」と呼ばれ、ノルウェー流の天気図解説を日本に導入。大正9年学士院賞を受賞。

毎日新聞社

▲4月15日　木村荘太（61）
小説家。ストリンドベリーなどの翻訳や随筆も手がけた。自伝『魔の宴』の刊行直前に自殺。画家・木村荘八は弟。

▲5月8日　相馬御風（66）
詩人。明治41年『御風詩集』を刊行。自然主義の評論家としても活躍し、評論集に『黎明期の文学』がある。

▲4月8日　V・ニジンスキー（60）
ロシアの舞踊家。1909年ロシア・バレエ団の第1回パリ公演に参加、天才と呼ばれた。その後振付師としても活躍。

▲1月21日　ジョージ・オーウェル（46）
イギリスの小説家。1949年発表の未来小説『1984年』はベストセラーに。ほかに『カタロニア賛歌』『動物農場』。

▲3月12日　ハインリヒ・マン（78）
ドイツの小説家で、1914年風刺小説『臣下』（3部作「帝国」の第1部）を発表し、名声を確立。トーマス・マンは弟。

▲3月14日　吉本せい（60）
吉本興業の創業者。明治45年、夫の吉兵衛と寄席興行に乗り出し、寄席経営を近代的な娯楽産業に育成した。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第28号 8月26日(火)発売 定価560円
毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1923［大正12年］

●特集
関東大震災――マグニチュード七・九 生きながら人間が燃えた「火焰地獄」／発掘！ 未公開アルバム 岡田紅陽が撮った「帝都壊滅」 丸ビルにオープンした“洋髪”のメッカ 山野千枝子「丸の内美容院」のノウハウ 禁酒法下のシカゴで「ビール大戦争」 二四歳の“代貸”アル・カポネ売り出す！

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日…婦人参政同盟結成（2月2日） 東京・丸の内に「丸ビル」完成（2月20日） 共産党員、一斉検挙される（6月5日） 難波大助、東京・虎ノ門付近で、議会に向かう摂政宮に発砲（12月27日）

●人物クローズアップ
軍に虐殺された大杉栄・伊藤野枝

●決定的瞬間
第一回“ル・マン”レース

●美の出会い
涙ながらに震災の焦土を写した池田遥邨

●女たちの肖像…“妖婦”波多野秋子、有島武郎と軽井沢心中／勝者・敗者…甲陽中、甲子園初出場初優勝 証言・あの日この日…吉野作造、岡本綺堂／20世紀博物館…グリコピア神戸（神戸）／「現場」を歩く…築地「仮市場」開設から七四年／外から見たNIPPON…ポール・クローデルの震災記録

●ベストセラー…月刊「文藝春秋」スタート／スターと名場面…栗島すみ子、「船頭小唄」でスターに／モノ語り'23…「養命酒」「ヘチマコロン」

■既刊好評発売中

バックナンバーは、お近くの書店でお求めください。創刊号のみ282円（税別）です。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく、送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。申込先 講談社読者サービス係 電話03-5395-3676

創刊号1959［昭和34年］ 第2号1964［昭和39年］ 第3号1945［昭和20年］ 第4号1970［昭和45年］ 第5号1963［昭和38年］ 第6号1958［昭和33年］ 第7号1972［昭和47年］ 第8号1980［昭和55年］
第9号1976［昭和51年］ 第10号1989［平成元年］ 第11号1960［昭和35年］ 第12号1961［昭和36年］ 第13号1962［昭和37年］ 第14号1965［昭和40年］ 第15号1966［昭和41年］ 第16号1967［昭和42年］
第17号1968［昭和43年］ 第18号1969［昭和44年］ 第19号1941［昭和16年］ 第20号1942［昭和17年］ 第21号1943［昭和18年］ 第22号1944［昭和19年］ 第23号1946［昭和21年］ 第24号1947［昭和22年］
第25号1948［昭和23年］ 第26号1949［昭和24年］

■今後の刊行予定

▶第29号1971〔昭和46年〕9月2日発売
マクドナルド1号店、銀座にオープン●元祖ネズミ講、熊本市第一相互経済研究所の“虚構”●日本、変動相場制に移行●林彪、逃亡中に墜落死の謎

▶第30号1973〔昭和48年〕9月9日発売
怪物ハイセイコー、10連勝●日本列島“トイレットペーパー狂騒曲”●「8時だョ！全員集合」人気の秘密●白昼、東京で拉致され韓国へ運ばれた金大中事件

▶第31号1974〔昭和49年〕9月16日発売
少女マンガの黄金時代●“金脈”をあばいた立花レポートで田中首相辞任へ●セブンイレブン開店●ニクソン大統領、ウォーターゲート事件で辞任

▶第32号1975〔昭和50年〕9月22日発売
赤ヘル軍団初優勝●「紅茶きのこ」と健康法ブーム●中国の秦始皇帝陵で兵馬俑発掘●サイゴン陥落！30年にわたる“ベトナム戦争”終結

▶第33号1977〔昭和52年〕9月30日発売
キャンディーズとピンク・レディー旋風●王貞治、ホームラン世界一を達成●“安宅マン”3600人の悲劇●ウガンダ、アミン政権の残虐恐怖政治

▶第34号1978〔昭和53年〕10月7日発売
日本全土で、カラオケ爆発的ブーム●新実力者・鄧小平来日●「サラ金地獄」で自殺者180人！●英国で世界初の試験管ベビー誕生

▶第35号1979〔昭和54年〕10月21日発売
インベーダーゲーム、大流行●「ジャパン・アズ・ナンバーワン」刊行●大ヒット商品「ウォークマン」開発物語●ホメイニ師、イランに帰国

ミニ事典

1950年のキーワード

平和革命論
日本における共産主義革命は議会を通じて遂行できるとした、共産党指導者・野坂参三の革命論。占領軍によって旧支配層の力が弱まり、共産党の党勢が増せば、合法的に政権を奪取できると主張した。しかし、一月六日、「帝国主義を美化するもの」とコミンフォルムが批判。共産党はその賛否をめぐって、野坂らの“所感派”と宮本顕治らの“国際派”とに分裂した。

日の丸梯団
抑留中に「学習」させられた共産主義思想に反発するソ連からの引揚げ者。前年、「インターナショナル」を歌いながら帰国した、ソ連からの「赤い引揚者」に対抗して使われた言葉。一月二一日、二五〇〇人が帰還したが、「君が代」「異国の丘」を合唱し、そのほとんどが胸に日の丸をつけていた。二月八日入港の「高砂丸」では、「日の丸梯団」と「赤い引揚げ者」がいがみ合いながら上陸する事態も生じた。

毎日新聞社

▲「日の丸梯団」は、整然と隊列を組んで上陸し、統制された行動で、出迎えた人々を驚かせた。

マッカーシー旋風
冷戦とアジア情勢の緊迫を背景に全米を席巻した反共の嵐。二月九日、マッカーシー上院議員が国務省に五七人の共産党員がいると発言したことが契機となった。この後もマッカーシーは、リベラリストらに共産主義者のレッテルを貼り、非米活動委員会を通じ「赤狩り」を煽動。一九五四年に上院で譴責決議案が可決されるまで、この騒ぎが続いた。

ストックホルム・アピール
原子兵器の絶対禁止と、その使用は人類に対する罪であって今後最初に使用した政府は戦争犯罪人になると規定したアピール。三月一五日からストックホルムで開かれた世界平和擁護大会常任委員会総会が採択、全世界に共感を求めると、この年一一月までに五億人を超える署名が集まり、朝鮮戦争でのアメリカの核兵器使用を思いとどまらせた。

イールズ事件
共産主義的思想を持つ教授の追放をねらうCIE（GHQ民間情報教育局）顧問イールズが五月二日、東北大学で講演を行おうとしたところ、全学連系学生の反対にあって流会となった事件。一六日にも北大で同様の事件があった。冷戦と朝鮮半島の危機を背景にGHQ（連合国総司令部）の占領政策は「逆コース」に転換、イールズはその浸透をはかるため大学を巡回、教職員のレッドパージなどを訴えていた。

曲学阿世の徒
吉田首相が五月三日、全面講和を説く東大総長・南原繁を評して使った言葉。「曲学阿世」とは『史記』の「儒林列伝」にある言葉で、世におもねって真理を曲解すること。国際社会への復帰をめざす日本は講和条約締結を急いでいたが、全面講和か単独講和かで国論が二分。単独早期講和を主張する政府に対し、革新陣営、知識人を中心とする人々が全面講和の必要性を強く訴えていた。

▶南原繁東大総長は前年一二月に渡米、各地で全面講和の必要性を訴えた。

集会禁止令
政府が六月一六日、国警・全自治警に発した、いっさいの集会・デモを禁止するむねの指令。公安条例反対闘争一周年記念集会の参加者と米兵との小競り合いを契機に、GHQが東京都内の集会・デモを禁止したのを受けて全国に拡大した。朝鮮戦争勃発を控えてなされた処置で、開戦日には公共の脅威、占領目的違反をのぞいて緩和された。

チャタレイ裁判
イギリスの作家D・H・ロレンスの小説『チャタレイ夫人の恋人』の翻訳が刑法第一七五条の「猥褻物頒布等」にあたるかどうかを争った裁判。最高検察庁は六月二六日、全国警察にこの本の押収を指令、「カストリ雑誌にも類をみないほど露骨」と決めつけた。九月一二日、訳者の伊藤整、版元の小山書店社長を起訴。昭和三二年、最高裁は作品を猥褻文書とし、両人に有罪を宣告した。

▶四月二〇日刊行の『チャタレイ夫人の恋人』。上・下合計一五万部を販売。

警察予備隊
非常事態宣言下の治安維持などを任務とするために創設された政府直属の行政警察で、陸上自衛隊の前身。七月八日、マッカーサー元帥が吉田首相宛書簡で七万五〇〇〇人規模の新設を「許可」するむねの指令を伝達。政府は国会での審議を必要としない政令で対処することとし、八月一〇日、警察予備隊令を公布、一三日から隊員の募集を開始した。

ガリオア計画
これからの日本のリーダーとなるべき若者たちにアメリカン・デモクラシーを実見させる目的で設立された、ガリオア（占領地域救済政府資金）による留学生派米制度。七月一〇～一三日、初めての一般応募試験を勝ち抜いた第二期生、五四人の女性を含む二八三人の若きエリートが日本を発った。この制度で四年間に一〇九七人が渡米、昭和二七年、フルブライト計画に引き継がれた。

レッドパージ
共産党員とその同調者とみなされるものを、GHQの指令に従って公職や民間企業から罷免・解雇した政策。七月一八日、マッカーサーが共産党機関紙「アカハタ」の無期限発行停止を指令、二四日には一般報道機関にも共産党員とその同調者の追放を勧告。以降、レッドパージの波は全国、全労働分野に吹き荒れ、民間産業で約一万人、官公庁・公共企業体で約一二〇〇人が職を奪われた。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1950

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室＋渡邉裕一
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ
小原伸夫 鍵和田良輔 小松邦宏 佐野長成 張替政展 藤森雅弘
結城順一 吉田忠正
●写真協力
青木正美 イサム・ノグチ イサム・ノグチ財団 ハンク・ウォーカー 三代目三遊亭歌笑 田中トシ子 玉井浅次郎 原田政章 福田俊二 松川裕 マックス・デスフォー 山口淑子 山田清 朝日新聞社 AP 沖縄タイムス キーストン 共同通信社 月刊沖縄社 TIME・LIFE PPS 毎日新聞社 ユニフォト・プレス 読売新聞社 ROGER-VIOLLET WWP 黒澤プロ 松竹 大映 手塚プロダクション 東映 明治製菓 交通博物館 札幌市教育委員会 中尊寺 日本近代文学館

本誌収録写真につき、所在不詳などのため事前連絡ができないものがありました。お心当たりの方は、編集部までご一報ください。

雑誌 23701 9/2
Ⓛ-2001/1/1
T1123701090565

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社